

ノ意思表示ナキ限りハ期間ノ定メナキモノトナシ第一ニ述ヘタル第六百二十七條ノ規定ニ依リ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲シ契約ヲ終了セシムルコトヲ得ルモノトス(民法第六二項)此場合ニハ前雇傭ニ付キ當事者カ擔保ヲ供セシトキニハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ前雇傭ノ消滅ト同時ニ消滅シ特別ノ契約ナキ限りハ後ノ雇傭ニ當然附隨シテ其效力ヲ有スルモノニアラス但身元保證金ニ限り反對ノ意思表示ナキトキハ後ノ雇傭ニ附隨シテ效力ヲ保ツモノトス(民法第六二項)此等ノ理由ハ貸貸借ニ於ケル敷金ト同一ナルカ故ニ茲ニ再ヒ之ヲ贅セス

第三 期間カ五年ヲ超過スルカ又ハ當事者ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキ場合

此場合ニ於テハ五年ヲ經過シタルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルナリ蓋シ雇傭ハ人身ノ自由ヲ拘束スルモノナルカ故ニ勞務者カ任意ニ勞務ニ服スル場合ハ何等ノ妨ケナシト雖モ然ラサルトキハ唯リ勞務者ノ品位ヲ害スルノミナラス勞務ノ效果ニモ大ナル影響ヲ及ホシ經濟上ニモ

不利益ヲ來スヲ免カレス然ルニ長キニ失スル期間ヲ定メタルトキハ斯ノ如キ弊ヲ醸シ易キカ故ニ法律ハ此弊ヲ避ケンカ爲メニ第六百二十六條ヲ以テ右ノ如ク規定シタルナリ但商工業見習契約ハ從來十一年以上ニ亘ル期間ヲ定メシコト尠ナカラス且或種類ノ業務ニアリテハ五年ノ期間ニテハ見習ノ目的ヲ達スルコト困難ナルモノアルカ故ニ此種ノ雇傭ニ限りテ殊ニ期間ノ制限ヲ十年トナセリ(民法第六二項)此規定ニ依リ契約ヲ解除セントスルトキハ相手方ヲシテ解約後ノ準備ヲ爲サシムル爲メニ三ヶ月前ニ解約ヲ豫告セサルヘカラス(第二項)斯ノ如ク雇傭ノ期間ヲ制限スル理由カ公益上勞務者ヲ保護スル趣旨ニアリトセハ契約ノ解除權ハ唯勞務者ニ與フルヲ以テ足り敢テ使用者ニマテ解除權ヲ與フル理由ナキカ如シト雖モ既ニ勞務者ニ此權利ヲ與ヘ一定ノ期間ヲ經過シタル後ハ何時ニテモ勞務者ハ解約ヲ爲スコトヲ得ルニ於テハ使用者ハ獨リ不安ノ状態ニ在ルノミニシテ之ヲ救済スル方法ヲ與ヘサルハ頗ル不公平ナルカ故ニ結局雙方ノ當事者ニ解除權ヲ與ヘタルモノナリ
尙ホ本條ニ付キ特ニ注意スヘキ點ハ契約ノ解除ナル文字ナリ契約ノ解除トハ

契約各論 雇傭ノ終了ノ時期

賃貸借ノ場合ニモ説明セシカ如ク其契約ヲ根本ヨリ消滅セシメ曾テ一度モ斯ノ如キ契約ヲ締結シタルコトナカリシト同様ナラシムルニアリ然ルニ第六百二十六條ノ場合ハ決シテ斯ノ如キ意味ニ於ケル解除ニアラス又斯ノ如クスルノ必要ナシ單ニ將來ニ向テノミ其契約ヲ廢止スレハ足ルモノナリ故ニ契約ノ解除ト云フト雖モ解除ニアラスシテ實ハ終了ナリ茲ニ解除ナル文字ヲ用キタルハ妥當ニアラスト信ス契約ノ解除ト終了トヲ混同スル者ヲ生スルモ亦此等ハ其一原因ナルヘシ

第四 已ムコトヲ得サル事由アルトキ
當事者カ雇傭存續ノ期間ヲ定メタルト否トヲ問ハス又期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者ノ一方又ハ第三者ノ終身間繼續スヘキモノナルト否トニ拘ハラズ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何時ニテモ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ此場合ニハ解除ノ豫告ヲ爲スヲ要セス唯解除ノ申入ニ因リ直チニ契約終了スルモノナリ而シテ已ムコトヲ得サル事由トハ如何ナル事由ナリヤハ各場合ニ事實問題トシテ之ヲ決定スルノ外ナシト雖モ直チニ解約スル必要ノ存

在スルコトハ要件ニシテ一定ノ豫告期間前ニ豫告スルコトヲ得ル場合ニアリテハ茲ニ所謂已ムコトヲ得サル事由ナリト云フヲ得ス又縱令已ムコトヲ得サル事由アルモ其事由カ當事者一方ノ過失ニ因リ生シタルモノナルトキハ相手方ニ對シ損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラス(民法六)
本條ニ付キテモ解除ナル文字ニ付キ前段ニ述ヘタルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第五 使用者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
此場合ハ賃貸借ノ場合ニ賃借人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルト同シク勞務者ハ完全ニ報酬ヲ受クルコトヲ得サルヘク又使用者モ十分ニ勞務ヲ利用スルコトヲ得サルヘキカ故ニ勞務者及ヒ破産管財人ハ何レモ第六百二十七條ノ規定ニ從ヒ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シテ解約スルコトヲ得而シテ賃貸借ニ於ケルト同一ノ理由ニ因リテ各當事者ハ之カ爲メニ損害ヲ受クルコトアルモ相手方ニ對シ其賠償ヲ要求スルコトヲ得ス(民法六一)

第二節 雇傭解除ノ效力

雇傭解除ノ效力

契約各論

雇傭 雇傭ノ終了 雇傭解除ノ效力

民法第六百三十條ハ貸借ニ關スル第六百二十條ノ規定ヲ準用シテ雇傭ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テ其效力ヲ生スルモノトナセリ乍併當事者ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ハ妨ケラレ、コトナシ本條ノ説明ハ第六百二十條ニ於テ之ヲ述ヘシカ故ニ茲ニ再ヒ贅セス

第八編 請負

第一章 請負ノ定義

民法第六百三十二條ニ依リ請負ノ定義ヲ擧クレハ

請負トハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果

ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ成ル契約ナリ

此定義ニ依レハ請負ハ左ノ要件ヲ具備セサルヘカラス

第一 請負ハ或仕事ノ完成ヲ目的トスルヲ要ス

請負モ亦人ノ勞務ニ關スル點ニ於テハ雇傭ニ類スレトモ既ニ述ヘタルカ如ク雇傭ハ直接ニ勞務其モノヲ目的トナスニ反シ請負ハ勞務其モノヲ目的トセスシテ其勞務ニ因リ或仕事ヲ完成スルコト即チ勞務ノ結果ヲ目的トスル點ニ於

テ雇傭ト之ヲ異ニス例ヘハ一个月間大工ヲ雇入レテ雇主ノ隨意ニ椅子ヲ作ラシメ或ハ批ヲ造ラシメ又ハ家屋ノ修繕ヲ爲サシムルト云フカ如ク單ニ大工ノ勞務其モノヲ目的トナシ其勞務ヲ契約ノ範圍内ニ於テ如何ニ使用スルカハ相手方ノ隨意ナルモノハ雇傭ナリ之ニ反シテ例ヘハ椅子十脚ヲ一个月間ニ作成スルコトヲ大工ニ注文シテ之ヲ造ルニ付キ其大工カ如何ニ其勞力ヲ使用スルモ其勞力使用ノ方法ニ付テハ注文者カ直接ニ容喩セス單ニ注文ニ違ハサル物品ヲ作成セシムルコト即チ其勞力ノ結果ニ付テノミ請求權ヲ有スルモノハ請負ナリトス

請負ハ勞務ノ結果ヲ目的トスルモノナリトスルモノ之ヲ賣買ト混同セサルヲ要ス請負ニ於ケル勞務ノ結果ハ物ナルコト多ク之ニ對シテ報酬ヲ支拂フトキハ其形甚タ賣買ニ類似スト雖モ賣買ハ物又ハ權利ノミヲ目的トスルニ反シ請負ハ縱令直接ニハ勞務ノ結果ヲ目的トスト雖モ又間接ニハ勞務ヲ以テ要件トスルモノナリ故ニ例ヘハ單ニ椅子十脚ニ對シテ代價ヲ支拂フハ賣買ニシテ請負ニアラス請負ニアリテハ一定ノ勞力ヲ使用シテ一定ノ物件ヲ作成スルヲ以テ

要件トス或仕事ヲ完成スルトハ即チ此意ナリ
 請負ニ於テ其仕事ヲ完成スル爲メ要スル材料ハ請負人カ之ヲ供スルモ注文者
 カ之ヲ供スルモ請負ノ性質ニ反スルコトナシ而シテ請負ト賣買トヲ區別スル
 ニ困難ナルハ仕事ノ材料ヲ請負人カ供給セル場合ナリトス例ヘハ指物師ニ机
 十脚ヲ注文セシトキニ指物師カ自己ノ材料ヲ以テ之ヲ作成シタル如キ場合ハ
 果シテ机ノ賣買ナリヤ請負ナリヤ明カナラサルコトアリ斯ノ如キ場合ハ各場
 合ノ事情ヲ斟酌シ當事者ノ意思ヲ推測シテ之ヲ斷定スルノ外ナシ
 以上ハ主トシテ仕事ノ結果カ有體物ナル場合ヲ想像シタリト雖モ又例ヘハ或
 問題ノ判斷或方法ノ設計ノ如ク其結果カ無形ナル場合ニ於テモ同シク請負タ
 ルニ妨ケナシ從テ所謂仕事トハ肉體上ノ勞務ナルト精神上ノ勞務ナルトヲ問
 ハサルナリ

第二 當事者ノ一方ハ或仕事ノ完成ヲ約スルコトヲ要ス

當事者ノ一方即チ請負者ハ或仕事ノ完成ヲ相手方ニ約スルコトヲ要ス單ニ約
 スルヲ以テ足り仕事ニ著手スルハ要件ニアラサルナリ

第三 相手方ハ其仕事ノ結果ニ對シ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルヲ要ス

請負人ノ相手方タル注文者ハ請負人ニ報酬ヲ與フルコトヲ約セサルヘカラス
 而シテ報酬ハ仕事ノ結果ニ對シテ與フルモノニシテ仕事即チ勞務其モノニ對
 シテ與フルモノニアラス第六百三十二條ニ一方ニ於テハ仕事ヲ完成スルコト
 ヲ約シト云ヒ以テ勞務ヲモ要件トスルコトヲ示スト同時ニ又一方ニ於テハ其
 仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スル云々ト記シ以テ勞務其モ
 ノヲ目的トスルニアラサルコトヲ示セルハ雇傭ト之ヲ區別スルノ趣旨ニ出テ
 タルモノナリ

近來重要ナル實際問題トシテ現ハレタルハ電燈會社ノ送電契約カ果シテ請負
 ナリヤ否ヤト云フ問題ナリ此問題ニ對シテ東京控訴院ハ積極的解釋ヲ與ヘ函
 館控訴院ハ消極的解答ヲ爲シ而シテ何レモ未タ大審院終局ノ判決ヲ受クルニ
 及ハスシテ訴訟終了シ該問題ハ今尙ホ未了ノ内ニアリ而シテ送電契約カ請負
 ニアラスト云フ說ノ理由トシテ東西ノ學者實務家カ主張スル所一様ナラスト
 雖モ其最モ有力ナル說ハ請負ハ仕事ノ完成ヲ約シ其結果ニ對シ報酬ヲ支拂フ

モノナルモ送電契約ハ送電者ノ繼續的行爲ヲ目的トシテ仕事ノ完成ナルモノ
 ナク其報酬モ亦仕事完成ノ結果ニ對シテ支拂フモノニアラスト言フニアリ然
 リト雖モ送電ノ行爲ニハ仕事ノ完成ナシト云フハ誤レリ此種ノ契約ノ目的タ
 ル行爲ハ一定ノ期間繼續シ其間同一ナル行爲ヲ繰返スヲ以テ一見仕事ノ完成
 ヲ明白ニ爲シ難キカ如シ然レトモ契約期間内電流ヲ需用者カ自由ニ使用シ得
 ル状態ニ置クコトカ即チ仕事ノ完成ニシテ其期間滿了ニ至ルマテ毎日同一ナ
 ル行爲ヲ繰返スハ即チ仕事ヲ進行スルモノナリ同一ナル行爲ヲ繰返スニアル
 ヲ以テ其仕事ハ毎日完成セルモノナリト云フハ非ナリ當事者ノ意思ニ於テハ
 其期間ノ滿了ニ至ルマテハ仕事ハ決シテ完成セス期間滿了ノ時ニハ又實ニ仕
 事ノ完成セルモノナルコトハ他ノ普通ノ請負仕事ノ完成ト何等ノ異ナル所ア
 ルヲ見サルナリ或ハ最初契約ノ當時ニ於テ期間ノ一定セサル場合ニ付キ疑ヲ
 抱ク者アルヘシト雖モ此期間ハ必スシモ最初ヨリ一定スルコトハ請負契約ノ
 成立ニ必要ナラス唯或方法ニ於テ其期間カ一定シ得ヘキモノナルヲ以テ足ル
 此一定シ得ヘキ期間内送電ノ契約ヲ爲スモノハ即チ仕事ノ完成ヲ約スルモノ

ニアラストシテ何ソヤ恰モ賣買ニ於テ買主カ代金ノ支拂ヲ約スル以上ハ最初ヨ
 リ其代金額ハ一定セサルモ尙ホ賣買ノ成立ヲ妨ケサルト同一ナリ或ハ又期間
 全部ノ滿了ヲ以テ仕事ノ完成トナストキハ送電ノ報酬ヲ毎月支拂フハ仕事ノ
 結果ニ對シテ支拂フモノニアラスト批難スル者アルヘシト雖モ是レ毎月支拂
 フ報酬ヲ以テ仕事ノ結果ニ對スル全部ノ報酬ト混同スルヨリ生スル誤解ナリ
 請負ニアリテハ報酬ハ仕事ノ結果ニ對シテ支拂フコトヲ要スルハ勿論其仕事
 ノ結果ト云フハ完成セル結果ヲ指スモノナルコト固ヨリ疑ナシ然リト雖モ其
 報酬ハ仕事ノ完成ヲ竣テ全部一時ニ支拂フヘキコトハ決シテ請負ノ要件ニア
 ラス故ニ報酬ヲ毎月支拂フハ仕事ノ結果ニ對シテ支拂フヘキ全部ノ報酬ヲ分
 割シ仕事ノ完成ニ進ム程度ニ應シテ月賦拂フ方法ヲ特約セルモノナルニ過キ
 ス斯ノ如キ報酬支拂フ方法ニ關シ當事者カ特約ヲ爲スハ決シテ請負ノ性質ニ
 反スルコトナキハ言ヲ竣タス之ヲ以テ其仕事ハ毎月完成スルモノトナシ或ハ
 仕事ノ結果ニ對シテ報酬ヲ拂ハサルモノトナスハ何レモ謬論タルヲ免カレス
 之ヲ要スルニ燈火用若クハ動力用ノ爲メニスル送電契約ハ何レモ請負タルニ

於テ何ノ缺クル所ナキモノト信ス
報酬ハ雇傭ノ場合ニ於ケルト同シク金錢其他ノ財産ニ限ラス勞務ヲ以テモ亦
報酬トナスコトヲ得ヘシ

右ノ定義ト要件トニ因リ請負ノ性質ハ諾成契約ニシテ有償且雙務契約ナルコト
ヲ知ルヘシ

第二章 請負ノ效力

第一節 注文者ノ義務

注文者ノ義務ハ契約ノ本旨ニ從ヒテ報酬ヲ支拂フコトニアリ而シテ報酬ノ種類
並ニ額ハ勿論其支拂ノ時期モ亦契約ヲ以テ定ムルヲ常トスルモ其支拂ノ時期ニ
關シテ當事者カ之ヲ定メサリシトキハ法律ハ特ニ規定ヲ設ケ其仕事カ目的物ノ
引渡ヲ要スルトキハ報酬ハ目的物ノ引渡ト同時ニ與フヘキモノトシ物ノ引渡ヲ
要セサルトキハ第六百二十四條第一項ノ規定ヲ準用シ請負人カ其約セル仕事ヲ
完成シタル時ニ支拂フヘキモノトナセリ(民法三三六)蓋シ請負カ物ヲ目的トシ且其引
渡ヲ要スヘキ場合ニ於テハ其物ヲ引渡シタル時ニ始メテ請負人ハ其義務ヲ完ウ

請負ノ効
力
注文者ノ
義務

シタルモノニシテ從テ第五百三十三條ノ雙務契約同時履行ノ原則ニ依リ報酬ハ
其物ノ引渡ト同時ニ與フヘキモノトナセルナリ又請負カ物ノ引渡ヲ要セサル場
合ニ於テハ其形最能ク雇傭ニ類シ到底同時履行ノ原則ヲ適用スルヲ得サルカ
故ニ雇傭ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノトナシタルナリ

第二節 請負人ノ義務

第一款 瑕疵擔保ノ義務

請負人ノ義務ハ契約ノ本旨ニ從ヒテ仕事ヲ完成スルコトニアリ而シテ其契約義務
ヲ完全ニ履行セサル一ノ場合タル目的物ニ瑕疵アル場合ニ付キ法律ハ特別ナル
規定ヲ設ケ請負人ノ義務ヲ定ム之ヲ請負人ノ瑕疵擔保ト云フ

第一 瑕疵修補

仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ請負人ハ其義務ノ履行ヲ完ウセサル者ナルカ
故ニ注文者ハ請負人ニ對シテ相當ノ期限ヲ定メ瑕疵ノ修補ヲ請求スルコトヲ
得例ヘハ時計ノ修繕ヲ請負ヒタル者カ一旦修繕セルモ尙ホ故障アリタルカ如
キ場合ニハ注文者ノ請求ニ因リ相當ナル期間内ニ更ニ之ヲ修補セサルヘカラ

請負人ノ
義務
瑕疵擔保
ノ義務

サルカ如シ
 乍併瑕疵カ重要ナラサル場合ニ其修補カ過分ノ費用ヲ要スルトキハ必スシモ之ヲ修補スルノ義務ナシ例ヘハ雜誌ノ印刷ヲ請負ヒタル印刷者ハ苟モ一字タリトモ誤植アリタルトキハ仕事ノ目的物ニ瑕疵アルニハ相違ナシト雖モ既ニ數千部ヲ印刷セル後ニ於テ其瑕疵ヲ修補スルカ如キハ僅カニ一字ノ爲メニ莫大ナル費用ヲ要スルカ故ニ斯ノ如キハ雷ニ請負人ニ對シテ酷ナルノミナラス一般經濟上ニモ頗ル不利益ナルカ故ニ斯ノ如キ場合ニハ請負人ニハ修補ノ義務ナシトナシタルナリ(民法六三項)

第二 損害ノ賠償

注文者ニ瑕疵修補ヲ請求スル權利ナキ場合ハ勿論縱令之ヲ請求スルコトヲ得ル場合ト雖モ必スシモ其修補ヲ請求セサルヘカラサルニアラスシテ瑕疵修補ニ代ヘテ損害賠償ヲ請求セントスルニ於テハ之ヲ禁スヘキノ理由存セス故ニ何レノ場合ト雖モ注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代ヘテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得ルモノトナセリ加之瑕疵修補ヲ請求セル場合ト雖モ到底完全ナル修補ヲ爲ス

コトヲ得サルコトアリ又完全ナル修補ヲ爲スコトヲ得ルトスルモ時期ニ遅レタルカ爲メニ注文者ニ損害ヲ生スルコトアルヘシ斯ル場合ニ於テハ注文者ハ瑕疵修補ト共ニ損害賠償ヲ併セテ請求スルコトヲ得ヘシ
 損害賠償ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ若シ未タ報酬ヲ支拂ハサルニ於テハ其報酬ト損害賠償トハ一ノ雙務契約ニ於ケル相互ノ義務ニハアラスト雖モ報酬ハ完全ナル仕事ノ結果ニ對スルモノニシテ損害賠償ハ仕事ノ不履行ナル部分ニ相當スルモノナルヲ以テ結局報酬ノ一部ニ當ル關係ヲ有スルモノナルカ故ニ第五百三十三條ノ規定ヲ準用シ同時履行ノ原則ニ依リ雙方トモ其債權カ辨濟期ニ在ルトキハ當事者ノ一方ハ相手方カ其債務ノ履行ヲ提供スルマテハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルモノトナセリ(民法六三項)

第三 注文者ノ契約解除權

仕事ノ目的物ニ瑕疵アル場合ニ於テ注文者ハ之カ爲メ契約ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ之カ瑕疵ノ修補ヲ爲シ又ハ損害賠償ヲ請求シ若クハ此兩者ヲ併セテ爲スモ之ノミニテハ未タ十分ナル救濟ヲ得ルコト能ハサルコトナキ

ニアラス斯ノ如キ場合ニハ注文者ハ契約ヲ解除スルコトヲ得ヘシ但其目的物カ建物ナルカ又ハ土地ノ工作物ナル場合ニハ解除スルコトヲ得ス其理由ハ建物其他土地ノ工作物ナルトキハ其契約解除ノ結果請負人ハ其物ヲ取り壊タサルヘカラス之カ爲メニ莫大ナル損害ヲ被ムルノミナラス其建物等ハ縦令注文者ハ契約ノ目的ノ爲メニ之ヲ使用スルコトヲ得サルトキト雖モ尙ホ相當ナル價值ヲ有スルコトハ勿論ナリ然ルニ契約解除ノ結果之ヲ取り壊ツトキハ其取壊ニ付キ大ナル費用ヲ要スルノミナラス其建物ノ價額ヲ皆無ニシ國家ノ經濟上ヨリスルモ甚タ不利ナル結果ヲ生スルモノト云ハサルヘカラス是レ此等ノ場合ニ契約解除ヲ許サ、ル所以ナリ(民法六三、五)

右第一ヨリ第三ニ至ル目的物ノ瑕疵ノ爲メニ生スル注文者ノ權利ニ關スル規定ハ其瑕疵カ注文者ヨリ供給セル材料ノ性質又ハ注文者カ與ヘタル指圖ニ因リテ生シタルトキハ此規定ヲ適用スルヲ得ス(民法六三、一)此場合ハ瑕疵ノ原因カ注文者ニ存シ請負人ノ義務不履行ニ基カサルカ故ニ其責任ヲ請負人ニ負擔セシムルコトヲ得サルハ言ヲ要セサルナリ然レトモ請負人ハ其仕事ニ付キテハ特別ナル智

識ヲ有スル者ナルヲ以テ其仕事ニハ如何ナル材料ヲ要スルモノナリヤ又ハ如何ナル方法ニ依ルヘキモノナリヤハ注文者ヨリモ能ク熟知シ居ルヘキモノナルカ故ニ若シ請負人カ其材料又ハ指圖カ不適當ナルコトヲ知レルニ拘ハラス之ヲ注文者ニ告ケサルハ頗ル不親切ナリト云フヘシ故ニ縦令其瑕疵ノ原因カ材料ノ性質又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ニ存スト雖モ尙ホ其責ヲ免カル、ヲ得サルモノトス(民法六三、二)

第二款 瑕疵擔保ノ期間

前述ノ場合ニ於テ請負人カ責任ヲ負フ爲メニハ現ニ其材料又ハ指圖カ不適當ナルコトヲ知ルヲ要シ縦令通常ノ請負人カ知レル事項ナルモ現ニ其請負人カ之ヲ知ラザリシトキハ其責任ヲ負フモノニアラス

請負人ニ瑕疵擔保ノ責任アルコトハ前款ニ述ヘタル所ナリ然レトモ物ノ瑕疵ハ時日久シキニ亘ルトキハ其原因カ請負人ノ義務不履行ニ基キタルヤ否ヤヲ明カニスルコト難ク又其損害ノ額モ明確ナラサルカ故ニ其瑕疵ニ付キ請負人ニ責ヲ負ハシムルニハ一定ノ期間ヲ定ムルノ必要アリ本款ニ所謂瑕疵擔保ノ期間ト稱

スルハ此意味ナリ

第六百三十七條第一項ハ瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除ハ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要スト規定セルカ故ニ瑕疵擔保ノ期間ノ一年ナルコトヲ知ルヘキナリ此期間ノ計算方法ハ目的物ノ引渡ヲ要スル場合ハ其引渡ノ時ヨリ、又引渡ヲ要セサル場合ハ仕事ノ終了セル時ヨリ起算スヘキモノナリ然レトモ請負ノ目的物カ土地ノ工作物ナルトキハ其瑕疵ハ工事終了ノ當時ニハ容易ニ發見スルヲ得ス數年後ニ至リ始メテ現ハル、コト多キカ故ニ一年ノ期間ハ短キニ失スルヲ免カレス故ニ土地ノ工作物又ハ其地盤ノ瑕疵ニ付キテハ擔保ノ期間ヲ五
リ(民法六三)
項一)

斯ノ如ク長期間ヲ定メタルハ其瑕疵カ容易ニ發見シ難キニ存スルカ故ニ既ニ其工作物カ瑕疵ノ爲メ滅失又ハ毀損シタル以上ハ此長期間ヲ定ムルノ必要ナキノミナラス注文者ハ速ニ其權利ヲ行ハサレハ其瑕疵ヲ修補スヘキ時期ヲ失ヒ修補ニ無用ナル費用ヲ増加スルノミナラス又其損害額ヲ定ムルコトモ困難ニ至ルヘ

キカ故ニ其滅失又ハ毀損ノ時ヨリ一年内ニ請求スヘキモノトナセリ(民法六三)本條第二項ニハ單ニ第六百三十四條ノ權利云々ト云ヒ契約ノ解除權ヲ除外セルハ本條ハ土地ノ工作物ニノミ關スル規定ニシテ土地ノ工作物ニ付テハ注文者ハ瑕疵ヲ理由トシテ契約ヲ解除スルコトヲ得サルカ故ニ從テ契約ノ解除ハ本條ノ場合ニ適用ナキカ故ナリトス

右ノ瑕疵擔保ノ期間ハ主トシテ當事者保護ノ目的ニ出テタルモノナルカ故ニ當事者ハ任意ニ契約ヲ以テ其期間ヲ伸張スルコトヲ得然レトモ其結果時効ノ期間ヲ超過スルニ於テハ公益ニ反スルカ故ニ其期間ノ伸張ハ自ラ時効ノ期間ニ制限セラルヘキナリ即チ第六百三十七條ノ場合ニアリテハ時効ニ關スル第六十九條ノ規定ニ依リ五年マテ、又第六百三十八條第二項ノ場合ニアリテハ時効ニ關スル第六十七條第一項ニ依リ十年マテ伸張スルヲ得ヘシ(民法六)

無擔保ノ特約

第三款 無擔保ノ特約

瑕疵擔保ニ關スル規定ハ注文者ヲ保護スル目的ニ出テタルモノニシテ敢テ公益ニ關スルモノニアラサルカ故ニ當事者ハ契約ヲ以テ其責任ヲ加重シ又ハ輕減ス

ル自由ヲ有ス然レトモ請負人カ擔保ノ責任ヲ負ハサルコトヲ特約セル場合ト雖モ知テ告ケサリシ事實ニ付テハ其責ヲ免カル、コトヲ得ス(民法六)本條ハ賣買ノ瑕疵擔保ニ關スル第五百七十二條ト其精神ヲ同ウシ縱令無擔保ノ特約ヲ爲ストモ惡意ノ請負人カ名ヲ無擔保特約ニ藉テ其責ヲ免カレントスル如キハ詐欺ニ類スルモノト云フヘキカ故ニ之ヲ禁セントスルニ外ナラス例ヘハ特定ノ材料ヲ用キ車ヲ製造スルコトヲ請負ヒタル者カ其材料ニテ製造セル車ハ使用ニ供スルコトヲ得サルヲ知リナカラ注文者ニ之ヲ告ケス無擔保ノ特約ヲ爲スモ其車カ一个年内ニ破損シタルトキハ請負人ハ其責ヲ免カル、ヲ得サルカ如シ而シテ茲ニ知リテ告ケサリシトハ無擔保ノ特約ヲ爲ス當時ニ於テ知ルヲ要スルカ故ニ特約當時ハ善意ナルモ後日惡意ヲ生シテ仕事ニ手ヲ抜キ瑕疵ヲ生セシカ如キ場合ハ本條ニ所謂知リテ告ケサリシ事實ト云フヲ得スト雖モ元來無擔保特約ナルモノハ擔保ノ責任ヲ負フヘキ者カ其當時知ラサリシ事實ニ付キ意外ナル責任ヲ負フヘキコトアル危險ヲ避クルノ精神ナルカ故ニ特約ノ當時善意ナリシニ後日ニ至リ惡意ヲ生シテ爲セシ事項ノ如キハ當然無擔保特約ノ範圍外ニアルヘキモノニシ

テ無擔保特約ノ爲メ責任ヲ免カル、コトヲ得サルハ言フ俟タサル所ナリ本條ハ擔保ノ責ヲ全ク負ハサル特約ヲ想像シタルモノナリト雖モ擔保ノ責任ヲ單ニ輕減シタル場合ト雖モ尙ホ一部ノ無擔保特約トシテ固ヨリ本條ノ適用ヲ受クヘキモノトス

第二章 請負契約ノ解除

請負契約ノ解除ニ付テハ曩ニ請負ノ效力ノ章ニ於テ仕事ノ目的物ニ瑕疵アリテ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコトヲ得サルトキハ注文者ニ契約解除ノ權ヲ生スルコトヲ述ヘシカ之ハ請負人ノ契約不履行ヨリ生スルモノナリト雖モ本章ニ於ケル請負契約ノ解除ハ當事者一方ノ不履行其他ノ過失ニ原因スルニアラスシテ請負契約ノ性質上注文者又ハ當事者雙方ノ爲メニ生スル解除權ナリ

第一 注文者ノ解除權

請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得(民法六)元來請負モ亦一ノ契約ニシテ當事者雙方ノ合意ニ因リ成立スルモノナルカ故ニ之ヲ注文者一方ノ意思ヲ以テ解除スルコトヲ得セ

シムルハ契約ノ性質ニ反シ頗ル不公平ナルカ如シト雖モ請負仕事ナルモノハ注文者ノ爲メ特別ナル用ヲ爲スモノ多ク注文者以外ノ人ニ於テハ全ク用ヲ爲サ、ルカ若クハ之カ爲メ要スル費用ト努力トニ比シテ甚タ僅少ナル用ヲ爲スニ過キサルヲ普通トス故ニ若シ注文者カ一旦注文セル後ニ至リ都合ニ因リ注文セルモノカ不用トナルニ至ルト雖モ尙ホ契約ノ本旨ニ從ヒ其不用ナル仕事ヲ完成セシメ約セル費用及ヒ報酬ヲ支拂ハサルヘカラサルニ於テハ注文者ニ對シテハ勿論何人ニ對シテモ利益ナキ仕事ヲ爲スモノニシテ國家經濟上甚タ不利ナルモノト云フヘシ故ニ此場合ニハ諸負人ニ對シ多少ノ不公平ナル結果アルモ公益上注文者ニ契約ノ解除權ヲ與フルハ實ニ已ムヲ得サルナリ況ヤ請負人ハ之カ爲メニ生スル損害ノ賠償ヲ要求シ得ルヲ以テ請負人ノ爲メニモ敢テ大ナル不公平ト云フヘカラサレハナリ

第二 當事者雙方ノ解除權

注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破産管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得(民法第六四項)此規定ハ賃貸借ニ於ケル第六百二十一條及ヒ雇傭ニ於

ケル第六百三十一條ト全ク同様ナル趣旨ニ出テタルモノナルカ故ニ茲ニ之ヲ贅セス

此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモ亦同一ノ理由ナリトス(民法第六四項)斯ノ如ク各當事者ハ契約ノ解除權ヲ有シ相手方ハ之ニ對シ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモノトセハ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ニ對シテモ報酬其他ノ費用ヲ要求スルノ權ナキハ勿論ナリ乍併斯ノ如キハ請負人ニ對シテ頗ル不公平ナルカ故ニ此場合ニハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付キ財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得ルモノトセリ(民法第六四項)報酬中ニ包含セサル費用トハ契約ヲ爲ス際ニ仕事ニ要スル材料ノ代價其他ノ實費ヲモ報酬中ニ包含セシムルコトアリ又ハ此等ノ實費ハ報酬ノ外ニ支拂フコトヲ約スルコトモアリ後者ノ場合ニ於ケル實費ヲ稱シテ報酬中ニ包含セサル費用ト云フ

第九編 委任

第一章 委任ノ定義

委任ノ定義

契約各論 委任 委任ノ定義

民法第六百四十三條ニ依リ委任ノ定義ヲ舉クレハ

委任トハ當事者ノ一方カ法律行為ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リ其效力ヲ生スル契約ナリ

此定義ニ依レハ委任ハ左ノ要件ヲ具ヘサルヘカラス

第一 委任ハ法律行為ヲ目的トスルコトヲ要ス

委任ハ必ス法律行為ヲ以テ其目的トセサルヘカラス法律行為ニアラサル單純ナル事實的ノ事務ハ之ヲ委任ノ目的トスルコトヲ得ス此點ハ委任カ請負又ハ雇傭ト區別セラル、重要ナル所ナリ乍併其目的カ法律行為タルコトヲ要スト否トハ委任ヲ雇傭又ハ請負ヨリ區別スル完全ナル標準トスルヲ得ス何トナレハ委任ノ目的タルモノハ必ス法律行為ニ限ルモ雇傭又ハ請負ハ必スシモ法律行為以外ノ事務ニ限ラレスシテ法律行為ヲ以テモ亦其目的トナスコトヲ得ヘキカ故ニ法律行為以外ノ事務ヲ目的トセル契約ハ委任ナラサルコト明カナルモ法律行為ヲ目的トスル場合ニ於テハ或ハ委任ナルコトアリ雇傭若クハ請負ナルコトアルヘキヲ以テナリ

第二 當事者ノ一方ハ法律行為ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託スルヲ要ス

當事者ノ一方即チ委任者ハ相手方即チ受任者ニ法律行為ヲ爲スコトヲ委託セサルヘカラス法律行為ヲ爲スコトヲ委託スルトハ私權ノ得喪變更等一定ノ結果ニ重キヲ置キ其法律行為ヲ爲ス細目ノ方法順序ニ至テハ必スシモ委任者カ一々指揮命令ヲ爲サス普通受任者ニ一任スルモノナリ故ニ此點ニ付テハ委任ハ雇傭ト異ナリ請負ニ類スト云フヘシ
然レトモ委任ハ委任者ト受任者トノ間ニ代理關係ヲ生スルヲ通例トナスニ反シ請負ハ決シテ注文者ト請負者トノ間ニ代理關係ヲ生スルモノニアラス唯請負ヒタル仕事ヲ完成スル義務ヲ負フノミナリ其仕事ヲ完成スル爲メニ代理ノ必要アルトキハ特ニ委任ヲ受ケサルヘカラス是ヲ以テ此點ニ於ケル當事者ノ關係ニ付テハ委任ハ雇傭ト請負トノ中間ニ在ルモノト云フヲ得ヘシ
委任ハ代理關係ヲ生スル原因タルコト多シト雖モ常ニ代理關係ヲ生スルモノニアラス蓋シ代理人カ代理行為ヲ爲スニハ必ス本人ノ爲メニ爲スコトヲ示シテ爲スコト要シ又其行為ハ直接ニ本人ニ對シテ效力ヲ生スヘキモノナリ然ルニ

委任ノ場合ニハ結局其行爲ノ結果カ委任者ニ歸スルコトヲ要スルモ必スシモ受任者ノ行爲カ凡テ直接ニ委任者ニ對シテ效力ヲ生セシムルヲ要セス從テ一委任者ノ爲メニスルコトヲ示シテ爲スノ必要モ亦存セサルナリ例ヘハ甲カ乙ノ代理人トシテ米ヲ購求スル場合ニハ其米ノ買入ハ乙ノ爲メニスルヲ示シテ爲サ、ルヘカラス從テ乙ハ之ニ依リテ直接ニ其米ノ所有權ヲ取得スト雖モ單ニ甲ハ乙ノ爲メニ米ヲ求ムルコトヲ委託セラレタル場合ニハ必スシモ最初ヨリ乙ノ爲メニスルコトヲ示シテ其買入ヲ爲スノ必要ナシ一旦自己ノ名ヲ以テ買入レテ自己ノ所有ニ歸セシメ更ニ其所有權ヲ乙ニ移轉スルコトヲ得ヘシ故ニ委任ハ常ニ代理關係ヲ生スルモノナリト云フヲ得サルナリ斯ノ如ク委任ハ必スシモ代理關係ヲ生スルモノニアラス從テ其目的タル法律行爲ハ必スシモ其委任者カ直接ニ自ラ完全ニ爲シ得ル行爲タルコトヲ要セスト雖モ然レトモ其法律行爲ノ結果ハ結局委任者ニ歸屬スヘキモノナラサルヘカラス又其委任者ニ歸屬スヘキ結果ハ其行爲ノ主體トシテ受クヘキ結果ナルコトヲ要ス蓋シ委託テフ文字ハ其普通ノ意味ニ於テ自己カ爲スヘキ事柄ヲ他人ヲシテ爲サ

シムルコトヲ表ハスモノナルノミナラス此趣旨ハ委任ニ關スル規定ノ全部ヲ見ルモ自ラ明カナルヲ得ヘシ然レトモ單ニ委託テフ文字ノ在ル故ヲ以テ民法第四百五十九條及ヒ同第四百六十條ニ規定セル主タル債務者カ保證人ニ保證ヲ爲スヘキコトヲ依頼シタル如キ場合ハ之ヲ委任ト稱スヘキモノニアラス蓋シ此場合ニ於テ同シク委託テフ文字ヲ用キタルハ少シク用語ノ慎重ヲ缺ケルノ批難ヲ免カレサルヘシ主タル債務者カ保證人ニ保證ヲ依頼スルモ亦自己ノ利益ノ爲メニ法律行爲ヲ爲サンコトヲ求ムルニアルコト相違ナキモ之ニ依リテ主タル債務者カ享クル利益ハ保證行爲ノ主體トシテ享クル結果ト全ク異ナレリ若シ委任ニアリテ其目的タル行爲ト委任者トノ關係カ委任者カ其行爲ノ主體トシテ受クヘキ結果ヲ得ルヲ要セストセハ甲カ乙ニ向ヒ乙ノ所有物ヲ賣渡サンコトヲ依頼シ乙カ之ヲ承諾シテ甲ニ對シ其物ノ賣渡行爲ヲ爲シタリトセハ此場合ニモ亦乙ノ賣渡行爲ヲ目的トスル委任契約カ甲乙間ニ成立セリト云ハサルヘカラサルニ至ルヘク其誤レルコトハ何人モ爭ナキ所ナルヘケレハナリ

右ノ如ク委任者ハ單ニ法律行爲ヲ爲スコトヲ受任者ニ委託スルヲ以テ足り必
スシモ之ニ對シテ報酬ヲ與フルコトヲ約スルヲ要セス報酬ヲ與フルモ委任ノ
性質ニ反セスト雖モ報酬ハ決シテ委任ノ要件ヲ成スモノニアラス却テ委任ハ
無報酬ナルヲ原則トシ殊ニ報酬ヲ與フル場合ニハ特約ヲ以テ之ヲ定ムヘキモ
ノナリ是レ亦雇傭及ヒ請負ト異ナル重ナル一點ナリトス

第三 相手方カ其委託ヲ承諾スルヲ要ス

委任ハ委任者ノ相手方タル受任者カ委任者ノ委託ヲ承諾セサルヘカラス即チ
委任カーノ契約タル所以ナリ

以上委任ノ定義竝ニ要件ニ依レハ委任ノ性質ハ必ス諾成契約ニシテ無償且片務
ナルコトヲ通例トナスコトヲ知ルヘシ委任者カ受任者ニ報酬ヲ與フル約束ヲ爲
セルトキハ此場合ニ限り有償且雙務契約トナルモノナリ

第二章 委任ノ效力

第一節 受任者ノ義務

委任契約ニ特別ナル受任者ノ義務ハ大要左ノ如シ

委任ノ効
力
受任者ノ
義務

第一 委任事務處理ノ義務

受任者カ委任ノ本旨ニ從ヒ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フコトハ委任ノ目的
上當然ニシテ敢テ言フ俟タスト雖モ之ヲ處理スルニ當リ如何ナル程度ノ注意
ヲ用キルヘキヤハ之ヲ明カニスル必要アリ民法第六百四十四條ハ受任者ハ善
良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スヘキコトヲ規定セリ善良ナル管
理者ハ如何ナル注意ヲ爲スヘキカ爭トナリタルトキハ各場合ニ付キ裁判所ノ
判斷ヲ受クル外ナシト雖モ苟モ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠リタルトキハ受任
者ハ縱令平生自己ノ事務ヲ處理スルニ當リテ用キル注意ヲ怠ラサリシトキト
雖モ之ヲ理由トシテ其責ヲ免カル、コトヲ得サルモノトス

第二 委任事務處理ノ狀況竝ニ顛末報告ノ義務

受任者ハ委任者ノ請求アルトキニハ何時ニテモ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ
又委任終了ノ後ハ遲滯ナク其顛末ヲ報告セサルヘカラス(民法六五)蓋シ委任カ終
了シタルトキハ受任者カ果シテ委任ノ本旨ニ從ヒテ善良ナル管理者ノ注意ヲ
以テ委任事務ヲ處理セシヤ否ヤ又其結果カ如何ナリシカヲ知ルハ委任者ノ爲

契約各論 委任 委任ノ效力 受任者ノ義務

メニ極メテ必要ナル事項ナルカ故ニ委任者ニ向テ其顛末ヲ報告スヘキハ受任者ノ當然ナル義務ナリ尙ホ其終了前ニ在テモ委任者ハ其事務處理ノ狀況ニ依リ適宜ノ處置ヲ爲スヘキ必要アルカ故ニ其請求ニ從ヒテ委任者ニ其狀況ヲ報告スルコトモ固ヨリ受任者至當ノ義務ト云ハサルヘカラス

第三 物及ヒ權利ヲ移轉スル義務

受任者カ委任事務ヲ處理スルニ當リテ委任者又ハ第三者ヨリ金錢其他ノ物ヲ受取リタルトキハ之ヲ委任者ニ引渡サ、ルヘカラス是レ固ヨリ委任者ノ爲メニ受取リタルモノナルカ故ニ之ヲ委任者ニ引渡スヘキハ當然ノ事理ナリト云フヘシ委任者ノ爲メニ收取シタル果實モ亦同様ナリト云フヘシ(民法一六四項)而シテ此場合ハ代理關係ノ有無ヲ問ハス物ノ引渡ニ因リ其物ニ關スル權利ヲ凡テ委任者ニ移轉シ得ル場合ヲ包含ス又委任ハ必スシモ代理關係ヲ生セサルカ故ニ委任者ノ爲メニ取得シタル權利ヲ受任者ノ名ヲ以テシテ直接ニ委任者ノ權利トナス一旦受任者ノ權利トナスコトアリ此場合ニ於テハ此權利モ亦委任者ニ移轉セサルヘカラス(民法一六四項)此場合ハ第一項以外ノ場合ニシテ且代理關

係ヲ生セサリシトキニ限ル代理關係ヲ生シタルトキハ委任者ハ既ニ當然權利者ニシテ之ヲ移轉スルノ必要ナケレハナリ

第四 損害賠償ノ義務

受任者カ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任ノ本旨ニ從ヒテ委任事務ヲ處理セス之カ爲メ委任者ニ損害ヲ來タシタルトキハ契約不履行ノ理由ニ基キ損害賠償ノ責アルハ言フ俟タス而シテ民法ハ受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金錢又ハ其利益ノ爲メニ用キル金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタル場合ニ關シ特別ナル規定ヲ設ケ其消費シタル日以後ノ利息ヲ支拂フコトヲ要スルノミナラス尙ホ損害アリシトキハ其賠償ノ責ニ任スヘキモノトナセリ(民法一六七項)元來金錢ヲ目的トセル債務ノ不履行ニ付キテハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リ定ムルヲ原則トス(民法一九四)此原則ニ從ヘハ法定利息ヲ支拂ヒタル以上ハ受任者ハ其以外ノ損害ヲ賠償スル義務ナシト雖モ受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金錢ヲ引渡サ、ルカ若クハ之ヲ引渡スコトヲ得サル場合ニ於テ適當ナル銀行ニ預入レテ利殖ノ方法ヲ講スル如キ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠リシトキハ單ニ之ノミニテモ損

害賠償トシテ法定利息ヲ支拂ハサルヘカラサルニ拘ハラス更ニ一步ヲ進メテ受任者カ之ヲ自己ノ爲メニ消費セシトキハ委託物消費罪トシテ刑罰ヲ科セラ
ル、程ノ行爲ヲ爲セルモノニシテ其情頗ル悪ムヘキモノナリ此場合ニ於テモ
單ニ受任者ハ損害賠償トシテ法定利息ヲ支拂フノミナルモノトセハ其所爲ト
制裁トハ甚タ權衡ヲ失スルカ故ニ法定利息ノ外ニ尙ホ損害ヲ賠償セサルヘカ
ラストナセル所以ナリ

委任者ノ
義務

第二節 委任者ノ義務

第一 報酬支拂ノ義務

委任契約ハ無償ナルヲ原則トシ受任者ハ特約ナケレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ
請求スルコトヲ得ス(民法一六四項)報酬ノ特約ヲ爲シタル場合ニ於テハ其支拂ノ時
期ハ契約ニ之ヲ定メタルトキハ其時期ニ支拂フヘキハ言ヲ俟タサレトモ當事
者カ支拂ノ時期ヲ定メサリシトキハ雇傭ノ場合ト同一趣旨ニ基キ受任者ハ委
任ノ履行ヲ終リタル後ニアラサレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス尤モ報酬ヲ定ム
ルニ期間ヲ以テシタルトキハ雇傭ニ關スル第六百二十四條第二項ヲ準用シ各

期間ノ終ニ於テ委任全部ノ履行ハ終ラサルモ其期間ニ對スル報酬ハ之ヲ請求
スルヲ得(民法六四項)

右ノ如ク報酬ハ委任ノ履行ヲ終リタル後支拂フヲ通則トスト雖モ委任ハ種々
ノ原因ニ因リ其履行ヲ終ラサル前ニ終了スルコトアリ而シテ其終了ハ全ク受
任者ノ責ニ歸スルコトヲ得サル場合ト雖モ尙ホ受任者ハ委任ノ履行ヲ終ラサ
ルノ理由ニ因リ報酬ノ支拂ヲ受クルコトヲ得サル如キハ頗ル不公平ニシテ之
カ爲メ委任者ハ不當ノ利得ヲ受クル結果トナルコト多カルヘク又縱令委任者
ニ何等ノ利益ナカリシトスルモ其事務ハ元來委任者ノ事務ナルカ故ニ其事務
ノ爲メニ時間ト勞力トヲ費シタル場合ニ於テハ其損害ハ其事務ノ屬スヘキ委
任者ニ歸スヘキハ至當ナリト云ハサルヘカラス故ニ委任カ受任者ノ責ニ歸ス
ヘカラサル事由ニ因リ其履行ノ半途ニ於テ終了セシトキハ受任者ハ其既ニ爲
シタル事務ノ割合ニ應シテ報酬ヲ請求スルヲ得ルモノトス(民法六四項)

第二 費用支出ノ義務

受任者カ委任事務ヲ處理スルニ付キ要スル費用ハ其事務カ元來委任者ノ事務

契約各論

委任 委任ノ效力 委任者ノ義務

ナル故ニ特約ナキ限ハ委任者ノ負擔タルヘキハ勿論ナリ故ニ其要スヘキ費用
 カ豫メ明カナルニ於テハ受任者ハ先キニ其費用ノ支出ヲ請求スルコトヲ得ヘ
 シ此場合ニ於テハ委任者ハ其費用ノ支拂ヲ爲サ、ルヘカラス(民法六
 四九)
 若シ又受任者カ豫メ費用ノ請求ヲ爲サス自ラ立替ヲ爲シ支辨シタルトキハ苟
 モ其費用カ必要ト認ムヘキモノナルニ於テハ委任者ハ受任者ノ請求ニ因リ其
 費用及ヒ其費用ヲ支出シタル日以後ノ法定利息ヲ償還セサルヘカラス(民法六
 五〇)
一本條ニ於テ必要ト認ムヘキ費用ト云フハ必スシモ結果ヨリ見テ現ニ必要ナ
 リシモノヲ指スニアラスシテ其費用ヲ支出セシ當時ニ於テ必要ト認ムヘカリ
 シモノナレハ足ル又其必要テフ意義モ必スシモ第九十六條若クハ第七百二
 條等ニ於ケル有益ノ語ニ對スル必要ト其意味ヲ同ウスルモノニアラス即チ物
 ノ保存ノ爲メニ缺クヘカラサル必要アルカ又ハ其委任事務ヲ行フ爲メニ絶對
 ニ必要ナルノ意義ニアラスシテ委任ノ場合ニ於ケル必要トハ善意ナル管理者
 カ行フヘキ手段ヲ行フニ付キ要スルモノハ總テ之ヲ茲ニ所謂必要ナル費用ト
 稱スルコトヲ得ルモノトス

第三 債務辨濟並ニ擔保提供ノ義務

受任者カ委任事務ヲ處理スルニ當リ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ
 自ラ其債務ヲ辨濟シ委任者ニ對シ其償還ヲ請求スルヲ得ルハ既ニ述ヘタルカ
 如シト雖モ受任者ハ又自ラ立替ヘテ辨濟ヲ爲スコトヲ爲サス委任者ニ向ヒ自
 己ニ代ハリ直接ニ其債務ヲ辨濟セシムルコトヲ得ヘシ若シ此時未タ辨濟期ニ
 アラサルトキハ之ニ對シテ委任者ニ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲモ爲シ得
 ヘシ(民法六
 五〇)蓋シ委任者ハ現在資力アルモ其債務ノ辨濟期ニ至ルマテニ無資
 力者トナルコトナキヲ保セス然ルニ一方ニ於テ債權者ニ對シテハ受任者ハ其
 債務ヲ免カル、コトヲ得サルモノナルカ故ニ結局將來ニ於テ受任者ノ損失ニ
 歸スヘキコトアルヘシ故ニ之ニ對シテ委任者ニ相當ノ擔保ヲ要求スルハ固ヨ
 リ當然ノ事理ト云フヘキナリ

第四 損害賠償ノ義務

受任者カ委任事務ヲ處理スルカ爲メニ受任者ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタル
 トキニハ委任者ハ其請求ニ因リ受任者ニ損害ヲ賠償セサルヘカラス(民法六
 三五)

是レ亦前ノ第二第三ニ於テ述ヘタルト同一ノ趣旨ニ基クモノニシテ固ヨリ當然ノ事理ト云ハサルヘカラス唯其損害ノ範圍ニ付キテハ何等ノ制限ナキカ故ニ苟モ委任事務ヲ處理スルカ爲メ生セシモノニシテ且受任者ニ過失ナキ限りハ如何ナル損害ト雖モ皆賠償セサルヘカラサルカ如シ又普通ノ解釋モ斯ノ如ク甚タ廣義ニ解スルモノ、如シ然レトモ契約ノ當時ニ於テ當然生スヘキコト明カナル損害ハ之ヲ賠償スルノ義務ナキモノトス例ヘハ横濱ニテ處理スヘキ事務ノ委任ヲ東京ニテ受ケタル者ハ之カ爲メ東京ヨリ横濱ニ往復スル爲メニ少ナクモ半日間ヲ費スヘク此時間内ハ自己ノ職務ヲ執ルコトヲ得サルコトハ明瞭ナルモノナルカ故ニ報酬ノ特約ヲ爲サスシテ此委任ヲ承諾シタルトキハ受任者ハ半日間ノ時間ハ當然委任者ノ爲メニ犠牲ニ供スルノ意思ナリシト推定スルヲ正當ト信ス然ルヲ此半日間ニ自己ノ義務ヲ行ヒテ得ヘキ利益ヲ委任事務ノ爲メニ得ルコトヲ得サリシトシテ之ヲモ損害トシテ委任者ニ賠償ヲ要求スルカ如キハ常識ヨリ之ヲ考フルモ頗ル條理ニ反スルモノト云ハサルヘカラス之ニ反シテ其委任ヲ受ケシ事務ノ性質上半日間ニテ終ハルヘキモノナリ

シカ受任者ノ過失ニアラサル事由ノ爲メニ終日ヲ要セシカ如キ場合ニハ其當然生スヘキモノニアラサリシ半日間ニ對スル損害賠償ハ之ヲ要求スルコトヲ得ヘキモノナリ

委任ノ終了

第三章 委任ノ終了

委任ハ委任契約ノ本旨ニ從ヒテ當事者雙方カ其義務ヲ履行シ終ハリタルトキ又ハ委任ニ期間ノ定メアルトキハ其滿了シタルトキニ終了スヘキコトハ勿論ナリト雖モ尙ホ委任ニ特別ナル終了ノ原因ハ次ノ如シ

第一 當事者任意ノ解除

當事者一方ノ意思ヲ以テ契約ヲ解除セントスルニハ豫メ其契約ニ於テ其解除權ヲ留保スルカ然ラスンハ法律ニ定メタル一定ノ原因アルヲ要スルコトヲ原則トス然ルニ委任契約ニアリテハ豫メ解除權ヲ留保スルコトナク又法律上一定ノ原因存在セスト雖モ各當事者ハ何時ニテモ自由ニ其契約ヲ解除スルコトヲ得(民法六五項)蓋シ委任契約ハ他ノ各種ノ契約ニ比シテ當事者相互ノ信任ニ重キヲ置クコト甚タ大ナルモノナルカ故ニ苟モ信任ノ缺乏セル者ニ對シ事務ノ

契約各論 委任 委任ノ終了

處理ヲ委任スルヲ得サルハ勿論ナルノミナラス又自己ノ信任セサル人ノ爲メニ事務ヲ處理スルカ如キモ人情トシテ忍フヘカラサル所ナリ斯ノ如キ事情アル爲メ委任契約ニ限り各當事者ハ其理由ヲ表示セス自由ニ之ヲ解除スルコトヲ得セシムル所以ナリ然レトモ此解除權ハ元來當事者ノ利益ノ爲メ與ヘラレタルモノナルカ故ニ之ヲ濫用シテ相手方ニ損害ヲ及ホスカ如キハ努メテ之ヲ避ケサルヘカラス故ニ已ムコトヲ得サル事由アラサルニ相手方ニ不利益ナル時期ニ解除シタルトキハ之カ爲メ生セル相手方ノ損害ヲ賠償セサルヘカラス此損害賠償ノ責ヲ免カレント欲セハ已ムコトヲ得サリシ事由アリシコトヲ立證セサルヘカラス(民法六五第二項)又此解除權ハ右述ヘタル如ク當事者一個人ノ利益ヲ保護スルニ出ツルモノニシテ公益規定ニアラサルカ故ニ當事者カ解除權ヲ行ハサルノ特約ヲ爲セシトキハ其特約ハ有效ニシテ自由ニ解除ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ナリ

第六百五十二條ハ貸貸借ニ關スル第六百二十條ノ規定ヲ準用シ委任ノ解除ハ唯將來ニ向テノミ其效力ヲ有スルモノトセリ其理由竝ニ解除ト終了トノ關係

ニ付キテハ貸貸借ノ場合ニ述ヘタルト同一ナルカ故ニ之ヲ省略ス

第二 當事者ノ死亡破産又ハ禁治産

委任ハ既ニ述ヘシカ如ク當事者相互ノ信任ニ基クモノナルカ故ニ此信任ノ缺乏ハ委任終了ノ原因タルヲ得ルモノトス而シテ當事者ノ一方カ死亡セシトキハ其相續人ト相手方トハ必スシモ相互ノ信任アルモノト云フヘカラスアルヲ以テ其死亡セシ當事者カ委任者ナルト受任者ナルトヲ問ハス委任契約ハ之ニ因リ當然終了スルモノトス

又破産ハ人ノ信用ニ重大ナル影響ヲ及ホスモノニシテ民事上死亡ト殆ト同視スヘキモノナルカ故ニ當事者ノ何レタルトヲ問ハス破産者トナリタルトキハ委任ハ亦之ニ因テ當然終了スルモノトス

禁治産ノ宣告ヲ受ケシ者ハ實際上殆ト自ラ法律行爲ヲ爲スコトヲ得サルヘク禁治産ノ宣告ヲ受ケシ者ニ法律行爲ヲ委託スルハ普通人ノ爲サ、ルモノナルカ故ニ受任者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケシ場合ニハ委任ハ亦之ニ因リ終了スルモノトス但禁治産ノ場合ハ他ノ死亡及ヒ破産ノ場合ト異ナリ受任者ニノミ限り

委任者カ禁治産ノ宣告ヲ受クルモ必スシモ終了ノ原因トナラサルナリ
 委任終了ノ原因ハ以上述ヘタル如ク其原因ノ當事者ノ何レニアルヲ問ハス苟モ
 終了ノ原因カ發生セシトキハ委任ハ之ニ因リ當然終了スヘキナリ然レトモ相手
 方カ其終了セシコトヲ知ラサル場合ニ於テ尙ホ其終了カ有效ナリトスルニ於テ
 ハ其相手方ハ意外ナル損失ヲ被ムルコトアルヘシ之カ爲メ民法第六百五十五條
 ハ委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ相
 手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニアラサレハ之ヲ以テ其相手方ニ
 對抗スルコトヲ得ストナシ以テ善意ノ相手方カ不慮ノ損失ヲ被ムルコトヲ防カ
 ントセルハ極メテ至當ノ規定ト云フヘシ
 委任終了ノ場合ニ於テ急迫ナル事情アルトキハ受任者其相續人又ハ其法定代理
 人ハ委任者其相續人又ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマ
 テ必要ナル處分ヲ爲サ、ルヘカラス(民法六五)苟モ委任カ終了シ其終了ノ事由カ受
 任者ニアル場合ニ於テモ之ヲ委任者ニ通知シ又ハ委任者カ之ヲ知リタル後ハ受
 任者ハ最早委任事務ヲ處理スヘキ何等ノ義務ヲモ有スルモノニアラス然レトモ

場合ニ依テハ委任者其相續人又ハ法定代理人ハ直チニ其委任事務ヲ處理スルコ
 ト能ハサルコトアルヘシ此場合ニ急迫ナル事情存スルトキハ委任者等カ自ラ其
 事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテハ受任者等ニ於テ必要ナル臨機ノ處分ヲ
 ナスヘキ義務ヲ負フハ最モ條理ニ適合シ且實際ニ便利ナル規定ト云ハサルヘカ
 ラス法文ニハ單ニ委任者等カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至ルマテトナシ
 其期限ノ制限ナキカ故ニ委任者等ノ自ラ處理スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ
 實際ナク受任者等ハ必要ナル處分ヲ爲スノ義務ヲ負フカ如シト雖モ一方ニ於テ
 委任終了ノ場合ニ於テ云々トアルカ故ニ委任終了ノ當時ニ存在セル急迫ナル事
 情アル場合ニ必要ナル處分ヲ爲シタル以上ハ縱令其性質ハ急迫ナル事情トスル
 モ委任終了後久シキヲ經テ生シタルカ若クハ久シキニ亘リテ繼續セル事情ニ對
 シテハ何等ノ義務ナキモノト信ス

第四章 準委任

委任ノ目的ハ法律行爲ニ限ルヘキコト既ニ述ヘタル所ナリ然レトモ法律行爲ニ
 アラサル事務ヲ委託セル場合ト雖モ其當事者間ノ關係ハ法律行爲ヲ委託シタル

トキト多ク異ナルコトナク加之法律行為ヲ委託スル場合ト雖モ純粹ニ法律行為ノミヲ委託スルカ如キハ難キコトニシテ同時ニ法律行為以外ノ事務ヲモ委託セサレハ到底委託セシ法律行為ヲモ行フコト能ハサルコト少ナシトセス此等ノ場合ニ於テ一々此兩者ヲ區別スルカ如キハ極メテ煩雜ナルノミナラス何等ノ實益存セサルカ故ニ民法第六百五十六條ハ委任ニ關スル規定ハ之ヲ法律行為ニアラサル事務ノ委託ニ準用スルコト、ナセル所以ナリ準委任トハ即チ之ヲ謂フナリ

第十編 寄託

第一章 寄託ノ定義

民法第六百五十七條ニ依リ寄託ノ定義ヲ擧クレハ

寄託トハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ因リテ成立スル契約ナリ

此定義ニ依レハ寄託ハ左ノ要件ヲ備ヘサルヘカラス

第一 寄託ハ物ヲ以テ目的トスルコトヲ要ス

寄託ノ目的ハ必ス物ナラサルヘカラス而シテ苟モ物タル以上ハ動産ナルト不

動産ナルトハ問フ所ニアラス國ニ依リテハ寄託ノ目的物ヲ動産ニ限ル例ナキニアラサルモ特ニ不動産ヲ除外スルノ理由ナキカ故ニ我民法ハ此兩者何レモ寄託ノ目的物タルコトヲ得ルモノトセリ

第二 當事者ノ一方ハ相手方ノ爲メニ目的物ノ保管ヲ爲スコトヲ約スルヲ要ス
當事者ノ一方即チ受寄者ハ相手方即チ寄託者ノ爲メニ目的物ノ保管ヲ爲スコトヲ約束セサルヘカラス而シテ保管トハ物ヲ占有シテ其安全ヲ保護スルヲ謂ヒ保管ハ又必ス寄託者ノ爲メニスルコトヲ必要トス故ニ第三者ノ爲メニ保管スルコトヲ約スルモ寄託ハ成立スルモノニアラス

第三 受寄者カ目的物ヲ受取ルコトヲ要ス
受寄者カ寄託者ノ爲メニ目的物ヲ保管スルコトヲ約セシノミニテハ未タ寄託ノ效力ヲ生セス現ニ其目的物ヲ受取ルニ因リ成立スルモノナリ然レトモ茲ニ目的物ヲ受取ルトハ目的物ノ占有ヲ得ル意味ニシテ必スシモ現實ニ授受スルコトヲ意味スルニアラサルナリ例ヘハ寄託者カ第三者ヨリ買受ケタル物ヲ受寄者ニ寄託スル場合ニ受寄者カ既ニ其物ヲ占有スルニ於テハ單ニ爾後寄託者

ノ爲メニ保管スルノ意思ヲ表示スレハ足レリトス
寄託ノ性質ハ上述セシ如ク要物契約ニシテ無償且片務契約タルコトヲ普通トス
寄託者カ受寄者ニ報酬ヲ支拂フ特約ヲ爲セシ場合ニ限り有償且雙務契約トナル
ナリ

第二章 寄託ノ效力

第一節 受寄者ノ義務

第一 保管ノ義務

受寄者ノ義務ハ受託物ヲ保管スルニアルコトハ勿論ナリ保管トハ占有シテ其
安全ヲ保護管守スルノ意ナルカ故ニ特ニ寄託者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ受
寄物ヲ使用スルヲ得ス又寄託者ハ受寄者其人ヲ信用シテ寄託スルモノナルカ
故ニ受寄者ハ第三者ヲシテ保管セシメントスルトキハ同シク寄託者ノ承諾ヲ
經サルヘカラス(民法六八第一項)受寄者カ寄託者ノ承諾ヲ得テ第三者ヲシテ受託物ヲ
保管セシムル場合ニ於テハ復代理人ノ場合ト同シク受寄者ハ其第三者ノ選任
並ニ監督ニ付キ寄託者ニ對シ責任ヲ負ハサルヘカラス乍併受寄者カ寄託者ノ

五五

指示ニ從ヒ第三者ヲ指名セシトキハ其不適任又ハ不誠實ナルコトヲ知り乍ラ
之ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ怠ルカ若クハ之ヲ解任スルコトヲ怠リタルトキ
ニ限り其責ニ任スヘキモノトス

又其第三者ハ何レノ場合ニ於テモ代理關係ノ復代理ト同シク寄託者ニ對シテ
直接ニ受寄者タルノ權利義務ヲ有スルモノトス(民法六八第二項)
受託者カ受託物ノ保管ニ付キ加フヘキ注意ノ程度ハ寄託カ有償ナルト無償ナ
ルトニ因リ同シカラス即チ有償寄託ニアリテハ債權總則ノ規定ニ從ヒ善良ナ
ル管理者ノ注意ヲ以テ保管セサルヘカラス(民法四〇)無償寄託ノ場合ハ之ニ反シ
テ自己ノ破産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ用キルヲ以テ足ル(民法五九)蓋シ無報酬ニ
テ他人ニ物ヲ寄託スル者ハ唯其受寄者ノ好意ニ依頼スルモノナルカ故ニ受寄
者カ常ニ自己ノ物ニ付キテ爲サ、ル特別ノ程度ノ注意ヲ望ムハ過大ナル望ナ
ルノミナラス寄託者モ斯ノ如キ望ヲ有セサルヲ常トスヘシ從テ受寄者ハ唯自
己ノ物ニ加フルト同一ノ程度ノ注意ヲ加フルヲ以テ充分ナリトシタルナリ之
ニ反シテ保管ニ付キ相當ナル報酬ヲ支拂フニ於テハ受寄者ヨリスレハ特別ナ

ル注意ヲ希望セラレ、モ敢テ不當ニアラサルノミナラス又寄託者ハ特別ノ注意ヲ以テ保管スルコトヲ望ムヲ普通トスヘシ是レ此場合ニ於テハ善良ナル管理
理者ノ注意ヲ要ストナセル所以ナリ

第二 訴訟及ヒ差押ノ通知義務

寄託物ニ付キ第三者カ權利ヲ主張シ受寄者ニ對シ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シ
タルトキハ受寄者ハ遲滯ナク其旨ヲ寄託者ニ通知セサルヘカラス(民法六〇)受寄
者ハ元來受託物ノ權利關係ニ付テハ充分ナル智識ヲ有セサル者ナルカ故ニ斯
ノ如キ場合ニ於テハ寄託者ヲシテ速カニ防禦ノ方法ヲ講セシムル爲メニ遲滯
ナク寄託者ニ通知スヘキハ善良ナル管理者トシテハ當然爲スヘキ注意ナルノ
ミナラス無償ノ寄託ニアリテモ苟モ他人ノ物ヲ保管スル者カ此通知ノ義務ヲ
負フハ至當ノ事ト云ハサルヘカラス

第三 返還ノ義務

受寄者カ受託物返還ノ義務ヲ負フコトハ勿論ニシテ返還ノ時期及ヒ返還ノ場
所ハ左ノ如シ

一 返還ノ時期

(イ) 當事者カ返還ノ時期ヲ定メタル場合 此場合ニ於テモ寄託者ハ何時ニ
テモ返還ヲ請求スルコトヲ得從テ受寄者ハ其請求ニ應シ何時ニテモ受寄
物ヲ返還セサルヘカラス(民法六六)蓋シ寄託ハ寄託者ノ利益ノ爲メニスルヲ
本則トスルカ故ニ其返還ノ期日モ亦寄託者ノ利益ノ爲メニ定メタルモノ
ト推定スヘキモノナレハナリ若シ受寄者カ返還時期ノ確定セサルコトヲ
不便ナリト思惟セハ特ニ其期日以前ニアリテハ寄託者ハ返還ノ請求ヲ爲
スコトヲ得スト約スルコトヲ得ヘク寄託者カ此特約ヲ爲セシトキハ期限
ニ關スル利益ヲ拋棄セシモノニシテ從テ其期限前ニ於テハ返還ノ請求ヲ
爲スコトヲ得ス斯ノ如ク返還ノ時期ハ寄託者ノ利益ノ爲メニ定メタルモ
ノト推測スヘキモノナルカ故ニ寄託者ハ其時期ノ定メアルニ拘ハラス何
時ニテモ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ト雖モ受寄者ハ已ムコトヲ得サル事
由ナキニアラサレハ其期限前ニ返還ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(民法第六
三)已ムコトヲ得サル事由トハ例ヘハ倉庫ヲ有スルカ故ニ保管ヲ承諾セシ

者カ火災ノ爲メニ其倉庫ヲ燒失シ保管スヘキ場所ヲ有セサルニ至リタル
場合ノ如シ

(ロ) 寄託物返還ノ時期ヲ定メザリシ場合 此場合ニハ寄託者カ何時ニテモ
其返還ヲ請求スルコトヲ得ルハ勿論受寄者モ亦何時ニテモ其返還ヲ爲ス
コトヲ得ルモノトス

二 返還ノ場所 寄託物ノ返還ノ場所ニ付キ當事者間ニ特約アルトキハ其特
約ノ場所ニ於テ返還スヘキコトハ勿論ナレトモ其場所ニ關シテ特約ナキト
キハ保管ヲ爲スヘキ場所ニ於テ返還スヘキモノトス保管ヲ爲スヘキ場所ハ
即チ其物ノ在ルヘキ場所ニシテ其場所ニテ返還スルコトハ最モ當事者ノ意
思ニ適合スヘケレハナリ乍併受寄者カ正當ナル事由アリテ保管スヘキ場所
ヨリ其物ヲ移轉シタルトキハ其現在ノ場所ニテ之ヲ返還スルコトヲ得ルモ
ノトス(民法六四)

第四 物及ヒ權利ヲ移轉スル義務

第六百六十五條ハ委任ニ關スル第六百四十六條ノ規定ヲ準用シ受寄者カ受託

物ニ關シテ受取リタル金錢其他ノ物及ヒ受託物ヨリ收取シタル果實ハ之ヲ寄
託者ニ引渡サ、ルヘカラス又受寄者カ寄託者ノ爲メニ受寄者ノ名ヲ以テ取得
セシ權利ハ之ヲ寄託者ニ移轉セサルヘカラス

第五 損害賠償ノ義務

右第六百六十五條ハ又委任ノ規定ナル第六百四十七條ヲ準用シ受寄者カ寄託
者ニ引渡スヘキ金額又ハ其利益ノ爲メニ用キルヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費
シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ支拂フヘク又其外ニ損害アリタル
トキハ之ヲモ賠償スルノ責アルモノトス

第二節 寄託者ノ義務

第一 損害賠償ノ義務

寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ノ爲メ受寄者ニ損害ヲ生シタルトキハ之ヲ賠
償セサルヘカラス例ヘハ普通ノ藥品ナリト信シテ寄託ヲ受ケタル者カ其劇藥
ナリシ爲メ之ニ觸レテ負傷シタルカ如キハ寄託物ノ性質ノ爲メニ生シタル損
害ナリ又或液體ノ寄託ヲ受ケタル場合ニ其容器カ不完全ナリシ爲メ受寄者ニ

寄託者ノ
義務

契約各論 寄託 寄託ノ效力 寄託者ノ義務

損害ヲ生シタルカ如キハ其物ノ瑕疵ノ爲メニ生シタルモノナリ此等ノ場合ニハ寄託者ハ受寄者ニ對シ之ヲ賠償セサルヘカラス然レトモ二箇ノ例外アリ其一ハ寄託者カ其性質又ハ瑕疵ヲ知ラサルトキ而モ之ヲ知ラサルニ付キ過失ナカリシ場合ニシテ寄託者ハ損害賠償ノ責ニ任セス其二ハ寄託者カ其性質又ハ瑕疵ヲ知ルト否ト又之ヲ知ラサルニ付キ過失ノ有無トヲ問ハス受寄者カ其性質又ハ瑕疵ヲ知ルトキハ寄託者ハ賠償ノ責ニ任セサルナリ

第二 報酬支拂ノ義務

寄託ハ亦無償ヲ本則トシ當事者カ報酬支拂ノ事項ヲ特約シタル場合ノ外寄託者ハ報酬支拂ノ義務ヲ負フコトナシ而シテ此特約アル場合ニ於テ支拂ノ時期ヲ定メタルトキハ其時期ニ支拂フヘキハ勿論ナルモ支拂ノ時期ヲ定メサルトキハ受寄者ハ其保管ノ義務ヲ履行シ了ハリタル後ニアラサレハ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス但期間ヲ以テ報酬ノ支拂ヲ定メタルトキハ既ニ經過セル期間ニ對スル報酬ハ全期間ノ經過前ト雖モ之ヲ請求スルコトヲ得又寄託ニ期間ノ特約アル場合ニ受寄者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ由リ其期間前ニ終了シタル

トキハ受寄者ハ既ニ經過セル期間ノ割合ニ應シ報酬ヲ請求スルコトヲ得(民法五六四八六項)

第三 費用支出ノ義務

受寄者カ受寄物ヲ保管スルニ付キ費用ヲ要スルトキハ寄託者ハ受寄者ノ請求ニ因リ其前拂ヲ爲サルヘカラス又受寄者カ費用ノ前拂ヲ受ケス必要ナル費用ヲ自ラ立替支辨シタルトキハ寄託者ハ其費用及ヒ其費用支出ノ日以後ノ利息ヲ償還スルコトヲ要ス(民法六六五〇第一項)

第四 債務辨濟並ニ擔保提供ノ義務

受寄者カ受寄物ヲ保管スルニ付キ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ委任ノ規定ヲ準用シテ受寄者ハ寄託者ヲシテ自己ニ代ハリテ其債務ノ辨濟ヲ爲サシムルヲ得又其債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ之ニ對シテ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得(民法六六五、六)

第二章 消費寄託

茲ニ消費寄託ト云フハ受寄者カ受寄物ヲ消費スルコトヲ得ル寄託ニシテ或ハ之

ヲ稱シテ不規則寄託ト稱ス即チ第六百六十六條ニ規定セル寄託ナリ元來寄託ハ物ノ保管ヲ目的トスルモノナルカ故ニ受寄者ハ原物ヲ返還スルコトヲ要シ之ヲ消費スルコトヲ得サルヲ原則トスルハ言フ俟タズ乍併其目的物カ代替物ナル場合ニ於テハ寄託者ハ必スシモ原物ノ返還ヲ受クルコトヲ要セス他ノ物ニテモ寄託物ト同様ナル以上ハ之ヲ以テ満足スルコトアリ即チ原物ト同一ノ種類品等數量ノ物ノ返還ヲ以テ足レリトスルコトアリ斯ノ如キ場合ニハ徒ラニ其物ヲ貯藏セス受寄者ヲシテ之ヲ利用セシムルコト公益上及ヒ私益上利益ナルカ故ニ特ニ契約ヲ以テ受寄者ニ其物ノ消費ヲ許スコトアリ此場合ニ於テハ受寄者カ其受寄物ヲ消費スル權利ヲ有シ單ニ其物ト種類品等及ヒ數量ノ同一ナル物ヲ返還スル義務ヲ負フノミナルカ故ニ頗ル消費貸借ニ類似ス然レトモ當事者ノ意思ハ寄託ヲ以テ目的トシ消費ハ寧ロ附隨ノ契約ナルカ故ニ消費ヲ以テ主タル目的トナセル消費貸借ト同一視スルヲ得ス是ニ於テ我民法ハ此場合モ尙ホ寄託トシテ之ヲ規定ス乍併一方ヨリ見レハ其契約ノ性質ハ寄託ナリトスルモ其實際ハ消費貸借ト同一ナル點多キカ故ニ第六百六十六條ハ受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費ス

ルコトヲ得ル場合ニハ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用スルコト、ナセリ但契約ニ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ消費貸借ニ在テハ貸主ハ直チニ其返還ヲ請求スルヲ得ス相當ノ期間ヲ定メ豫メ催告セサルヘカラスモ消費寄託ニ在テハ寄託者ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得蓋シ消費寄託ニアリテハ保管ナルコトカ主ナル目的ニシテ受寄者ノ消費ハ主タル目的ニアラサルカ故ニ斯ノ如キ差異アルハ當然ナリト云ハサルヘカラス而シテ其他ノ點ニ付テハ消費貸借ニ關スル規定ノ準用ヲ受クルハ勿論ナルモ獨リ其準用ノ範圍ニ至リテハ成立ニ關スル規定以外ニ止マルヤ又成立ニ關スル規定モ亦準用ヲ受クル範圍内ニ在リヤハ多少ノ疑ナキニアラサルモ大審院ノ判例ニ依レハ之ヲ廣義ニ解シ第五百八十八條ノ如キ成立ニ關スル規定モ亦準用ヲ受クルモノトナセリ

第十一編 組合

第一章 組合契約ノ定義

民法第六百六十七條ニ依リ組合契約ノ定義ヲ舉クレハ
組合契約トハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ依リ

組合契約ノ定義

效力ヲ生スル契約ナリ

此定義ニ依レハ組合契約ハ左ノ要件ヲ具備セサルヘカラス

第一 組合契約ハ事業ノ經營ヲ目的トスルコトヲ要ス

組合契約ノ目的ハ事業ノ經營ナラサルヘカラス而シテ事業トハ如何ナル意味ヲ有スルヤト云フニ精確ナル定義ヲ與フルハ困難ニシテ一般普通ノ觀念ニ依リ其意義ヲ定ムルノ外ナシト雖モ單ニ或所マテ旅行スルコトノ如キ又一頭ノ馬ヲ買入ル、カ如キ單純ナル行爲ニ止マルモノハ事業ヲ營ムモノト云フヲ得サルヘク少ナクトモ複雑ニシテ不定ナル事實上及ヒ法律上ノ行爲ヲ包含スルモノナラサルヘカラサルヘシ苟モ事業ノ經營ナル以上ハ其營利的事業ナルト否トハ問フ所ニアラス故ニ教育、宗教、慈善等ノ事業モ亦商業工業等ノ事業ト同シク組合契約ノ目的トナルコトヲ得ルモノトス

第二 目的タル事業ハ各當事者ノ共同事業タルコトヲ要ス

組合契約ノ目的タル事業ハ契約各當事者ノ共同事業トシテ營ムモノナラサルヘカラス事業ハ其内ノ一人ノ事業ニシテ他ノ當事者ハ單ニ資本ヲ供スルニ止

マラハ縱令特約ニ依リ其損益ヲ分擔スルモノナルモ組合契約ハ成立スルモノニアラス之ニ反シテ唯其損益ハ其中一人ニ歸スルトスルモ其事業ハ各當事者ノ共同事業ナルトキハ組合契約ナリト云フヘシ故ニ其事業カ共同事業タル要件ハ資本及ヒ損益分擔ノ外ニ存スルモノト知ルヘシ

第三 各當事者カ出資ヲ爲スコトヲ要ス

組合契約ニアリテハ其目的タル事業ヲ營ム爲メニ各當事者カ悉ク其資本ヲ負擔シ出資セサルヘカラス其當事者中ノ一人ニテモ出資ヲ負擔セサルモノアルトキハ組合契約ハ成立セス但其出資ハ必スシモ金錢、物品、債權等ノ財産ヲ以テスルヲ必要トセス勞務ヲ以テモ亦其目的トナスコトヲ得(民法六六七)例ヘハ學校ヲ設定スル爲メニ組合契約ヲ結ヒタル場合ニ其中ノ或者ハ別ニ財産ヲ出資トセサルモ自ラ教授ノ事務ニ従事スルコトヲ約スルニ於テハ出資タルノ要件ヲ備フルコトヲ得ルカ如シ

組合契約ハ當事者カ右ノ要件ヲ具備セル合意ヲ爲スニ於テ成立ス而シテ其當事者即チ組合員ノ數ニハ制限ナキカ故ニ二人以上幾人ニテモ組合契約ヲ爲スコト

ヲ得而シテ其契約ノ性質ハ有償ニシテ雙務且諾成契約ナルコトヲ知ルヘシ

第二章 組合契約ノ效力

第一節 組合内部ノ關係

第一款 組合財産

組合契約ニ基キ各組合員カ出資シタル財産其他組合事業ノ爲メニ組合員カ取得シタル財産ハ凡テ組合財産ヲ組成シ其組合財産ハ總組合員ノ共有ニ屬スルモノナリ(民法六八)蓋シ組合ハ法人ニアラサルカ故ニ權利主體タルヲ得ス從テ其財産ハ各組合員カ單獨ニ有スル財産ノ集合シタルモノトナスカ否ラサレハ總組合員ノ共有ナラサルヘカラス然レトモ共同事業ヲ營ムヲ目的トセルモノナルカ故ニ其財産ヲ組合員各自カ分割シテ有スルコトハ頗ル不便ナルカ故ニ總組合員ノ共有トナスコトハ當然ノ事理ナリトス其結果各組合員カ出資ヲ爲ストキハ其財産權ノ一部ヲ他ノ組合員ニ讓渡スルコト、ナルヲ以テ讓渡ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス即チ不動産ニ付テハ登記ヲ爲シ債權ニ付テハ債務者ニ讓渡ノ通知ヲ爲サ、ルヘカラス又組合ノ解散若クハ組合員ノ脱退ノ場合ニ於テモ當然各組合員カ出資

組合契約ノ效力
組合内部ノ關係
組合財産

セシ財産其モノ、返還ヲ請求スルヲ得サルヤ明カナリ

組合契約ニ於テ金錢ヲ以テ出資ノ目的トナシタル組合員カ其出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其組合員ハ其法定利息ヲ支拂フノ外尙ホ組合ニ損害アリシトキハ之ヲモ賠償セサルヘカラス(民法六九)金錢ノ支拂ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ法定利息ヲ以テ其損害額トナスヲ原則トスレトモ實際ハ此法定利息ノミニテハ現實ノ損害ヲ償フニ足ラサルコト少ナシトセス唯普通ノ場合ニハ金錢ニ關スル損害ハ正確ニ之ヲ立證スルコト困難ニシテ從テ其損害ノ額ニ付キ繁雜ナル爭ヲ生スルコトアルヲ慮リ一方ニ於テハ法定利息以上ノ損害ヲ要求スルヲ許ササルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ法定利息ニ對スル損害額ハ之カ立證ノ責ヲ免シ以テ公平ナル結果ヲ得ントスルニ在リ組合ノ場合ハ特別ナル事情アリテ其原則ニ從フヲ得ス即チ其債務者ハ組合員ニシテ組合ノ事業ハ同時ニ其債務者自己ノ事業ナリ故ニ債務ノ不履行カ其組合ニ幾許ノ損害ヲ生スヘキヤハ債務者ハ之ヲ熟知スヘキ筈ナリ加之其損害ノ犠牲トナリタル組合ハ其債務者自ラモ亦其設立ニ與カリタルモノナリ其損害ニ付キ直接ノ原因タル債務ノ不履行カ債務者ノ責

任ナルハ勿論又之カ爲メニ他人ニ損害ヲ及ホス機會トナリタル組合ノ設立ニ付テモ亦責ヲ有スルモノナリ斯ノ如キ地位ニ在ルニ拘ハラズ單ニ法定利息ヲ支拂フノミニ因リ其責ヲ免カル、ハ制裁甚タ輕キニ過クルカ故ニ法定利息以上尙ホ損害ヲ賠償スヘキ責ヲ有スルモノトナシタルナリ

業務執行

第二款 業務執行

組合ノ業務執行ニ付キ説明スヘキコトハ業務執行者ト業務執行ノ方法ニ關スル二點ナリ此二點トモ組合契約ニ於テ定マル所ニ從フハ言ヲ俟タスト雖モ組合契約ニ其規定ナキ場合ニ付キ民法カ規定セル所ハ左ノ如シ

第一 業務執行者

組合契約ニ於テ業務執行者ヲ定メタルトキハ其者ノミカ業務執行者ニシテ他ノ組合員ハ業務ノ執行ニ與ルコトヲ得スト雖モ組合契約ニ之ヲ定メザリシトキハ各組合員總テ業務執行者ナリ而シテ組合契約ヲ以テスルトキト雖モ業務執行者ハ必スシモ組合員ニ限ルノ必要ナク組合員ニアラサル者ト雖モ之ヲ以テ業務執行者トナスコトヲ得ルモノトス唯組合員以外ノ者ナル場合ニハ其者

ハ組合契約ノ當事者ニアラサルカ故ニ其契約ニ依リ當然業務執行者トナルモノニアラス更ニ其契約ニ基キ委任ノ手續ヲ爲シテ後始メテ業務執行者タルモノナリ從テ此種ノ業務執行者ト組合トノ關係ハ純然タル委任ニシテ別ニ其權利義務ニ付キ規定スルノ必要ナシ然レトモ組合員カ業務執行者ナル場合ハ其業務執行者ハ果シテ委任關係ニ依ル受任者ナルヤ否ヤニ付テハ疑アリ何トナレハ受任者ナルモノハ他人ノ爲メニ他人ノ法律行爲ヲ爲スモノナルニ組合員タル業務執行者カ行フ業務執行ハ單純ナル他人ノ業務ニアラスシテ同時ニ自己ノ業務ナルカ故ナリ或ハ此點ニ於テ他人ノ業務タル部分ニ付キテノミ委任關係アリトスレハ支障ナシト言フ者アルモ元來組合ノ事業ハ共同ノ事業ナルカ故ニ各行爲カ皆共同ノ行爲ニシテ之ヲ自己ノ部分ト他人ノ部分トニ分ツコトハ不可能ナリトス從テ他人ノ業務タル部分ニ付キテノミ委任關係成立スト云フ說ハ認ムルヲ得サルナリ

斯ノ如ク業務執行者タル組合員ノ地位關係不明瞭ナルカ故ニ民法ハ特ニ明文ヲ設ケ此種ノ業務執行者ニハ委任ニ關スル第六百四十四條乃至第六百五十條

ノ規定ヲ準用スルコト、ナセリ(民法六七一)本條ニ於テハ特ニ準用ト云ヒ適用ト云ハサル點ヲ見ルモ民法ハ純粹ナル委任ニアラストナセシコトヲ知ルヘシ又單ニ組合ノ業務ヲ執行スル組合員ト云ヒ組合契約ニ依ルト否トヲ問ハサル故ニ組合契約ニ依リ組合ノ業務ヲ執行スル者ト否ラサル者トヲ問ハス苟モ組合員ニシテ組合ノ業務ヲ執行スル者ハ凡テ純然タル委任ニアラサルモノトナシタルコトヲ知ルヘシ(或ハ委任ハ必ス委任契約ニ依ラサルヘカラス組合契約ニ依リ委託ヲ受ケタル者ハ委任契約ニ依リタルモノニアラサルカ故ニ委任關係生スルコト能ハスト言フモノアリト雖モ然レトモ各種ノ契約ハ必スシモ別箇ニ其契約ヲ締結セサルヘカラスナルノ必要ナク組合ト同時ニ其條項中ニ委任契約ヲ包含セシメ委任契約ト組合契約ト同時ニ之ヲ爲スモ支障アルコトナシ故ニ組合契約ニ依リタルカ故ニ委任關係發生セスト云フハ謬論ナリト云フヘシ然レトモ組合員ニシテ業務執行者タル者ノ辭任、解任ニ付キテハ其業務執行者トナリタル原因カ組合契約ニ存スルト否トニ依テ區別シ組合契約ニ依リ業務執行者トナリシ者ハ正當ナル事由ナキニ於テハ辭任スルヲ得ス又解任スルヲ得

ス且解任ノ場合ニハ正當ナル事由アルモ他ノ組合員カ總テ一致セサルヘカラストナセリ(民法六七二)蓋シ組合契約ヲ以テ組合員ノ一人又ハ數人ヲ業務執行者トナシタルトキニハ其執行者カ辭任スルモ亦他ノ組合員カ之ヲ解任スルモ何レモ組合契約ノ變更トナルカ故ニ理論上ハ總組合員ノ一致ニ依ルニアラサレハ之ヲ爲シ得ヘカラサルナリト雖モ如何ナル場合ニ於テモ其業務執行者ハ他ノ總テノ組合員ノ同意ナケレハ辭任スルヲ得ストナスハ酷ニ失スルカ故ニ法律ハ正當ノ事由アルニ於テハ他ノ組合員ノ意思ニ拘ハラス辭任スルコトヲ許シタルナリ又組合ヨリ之ヲ解任スルトキモ同一ニシテ總組合員ノ一致即チ解任セラレントスル業務執行者モ共ニ一致セサレハ爲シ得ヘカラサルカ如シト雖モ其組合員ヲシテ業務ヲ執行セシムルコトヲ得サル正當ナル事由アルニ拘ハラス其者ノ解任ニ付キ多少利害相反セル其業務執行者ノ同意ヲモ得サルヘカラストスルハ組合ノ爲メ不利益ナルヘキカ故ニ他ノ組合員ノミノ一致ヲ以テ足ルトシタルナリ

右ノ如ク本條規定ノ精神ヨリ察スルトキハ組合契約ニ依ラサル場合ニハ縱令

組合員カ業務執行者ナルトキト雖モ其組合員ハ何時ニテモ辭任ヲ爲スコトヲ得又他ノ組合員ハ之ヲ解任スルコトヲ得ルニ似タリ即チ當然委任ノ規定適用セラル、モノナリ本條中業務ノ執行ヲ「委任シタル」ト云ヘリ委任ナル文字ヨリ見ルモ明カナリ此點ハ第六百七十一條ニ於テ組合員カ業務執行者タル場合ニ於テハ其關係ハ純然タル委任ニアラサルモノトナシ殊ニ委任ニ關スル規定ヲ準用シタル精神ヲ是認セサルカ如キ觀ナキニアラス

第二、業務執行ノ方法

業務執行者ニアラサレハ組合ノ業務ヲ執行スルコトヲ得サルハ勿論ナリ而シテ其業務執行者カ業務ヲ執行スル方法ニ付キテハ組合ノ業務ヲ常務及ヒ常務ニアラサル業務トニ別チテ述ヘサルヘカラス
一 常務ニアラサル業務 常務ニアラサル業務ハ業務執行者ノ過半数ヲ以テ行ハルヘキモノナリ即チ組合契約ヲ以テ業務執行者ヲ定メタルトキハ其業務執行者ノ過半数又組合契約ニ於テ業務執行者ヲ定メサルトキハ總組合員(此場合ニハ總組合員カ即チ業務執行者タルナリ)ノ過半数ヲ以テ決行スヘキ

ナリ(民法第六七項)何レノ場合ニ於テモ更ニ業務ノ執行ヲ他人ニ委任セントスルトキハ委任其モノカ一ノ業務執行ナルカ故ニ業務執行者ノ過半数ヲ以テスヘキモノナリトス

二 常務タル業務 過半数ヲ以テ決スルコトハ固ヨリ公平ニシテ組合ノ事務ノ統一ヲ圖ルニ於テ利益ナルニ相違ナキモ如何ナル事項ト雖モ悉ク過半数ニテ決行スル如キコトハ到底實行シ得ヘカラサルノミナラス却テ事務ノ滯ヲ來シ組合ノ不利益トナルヘシ故ニ組合ノ常務ハ各業務執行者カ之ヲ專決實行スルコトヲ得ヘキモノトス尤モ是レ便宜上ノ例外ナルカ故ニ其業務ノ結了前ニ他ノ業務執行者カ異議ヲ述ヘサルトキニ限り有效ナルモノニシテ其結了前ニ異議ヲ述ヘタルトキハ更ニ業務執行者ノ過半数ニ依ラサルヘカラス(民法第六七項)而シテ常務トハ如何ナル事務ヲ云フヤ明カナラスト雖モ要スルニ組合ノ事業ヲ行フ爲メニ當然且屢行ハル、モノニシテ慣例上其方法ノ略ホ定マレルモノヲ云フヘキカ而シテ過半数ニテ行フヘキコトヲ原則トシ例外トシテ常務ニ限り過半数ニ依ラスシテ行フコトヲ得ルモノナルカ故

ニ專行シテ尙ホ有效ナルコトヲ主張スルモノカ其常務ナルコトヲ立證スヘキモノト信ス

組合ノ業務及ヒ財産狀況ノ検査

第三款 組合ノ業務及ヒ財産狀況ノ検査

組合契約又ハ組合員ノ過半数ヲ以テ特ニ組合ノ業務執行者ヲ定メタルトキハ其業務執行者ニアラサル他ノ組合員ヲシテ妄リニ組合ノ業務ニ干涉容喙セシメサルコトハ業務ノ執行ヲ迅速ニシ且統一ナラシムル爲メ必要ニシテ特ニ業務執行者ヲ定ムル所以モ亦茲ニ存ス然レトモ組合ノ業務竝ニ財産ハ總組合員ノ業務竝ニ財産ナルヲ以テ業務執行ノ權利ヲ有セサル組合員ト雖モ自己ノ利益ヲ保護スルカ爲メ機宜ノ處分ヲ爲シ得ルタケノ機會ヲ有セサルヘカラス是ニ於テ第六百七十三條ハ業務執行ノ權利ヲ有セサル組合員ニモ其業務及ヒ組合財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得セシム此検査ヲ行フハ何時ニテモ差支ナシト雖モ緊急ノ必要アル場合ノ外ハ組合ノ爲メ不利益ナル時ニ於テ爲スコトヲ得サルモノトス

損益分配ノ割合

第四款 損益分配ノ割合

組合員ハ契約ヲ以テ自由ニ損益分配ノ割合ヲ定ムルコトヲ得ヘク之ヲ定メタル

場合ニ於テ之ニ從フヘキハ言ヲ竣タスト雖モ往々ニシテ其割合ヲ豫メ定メサルコトアリ縱令之ヲ定ムルモ利益若クハ損失ノ一方ニシテ雙方ニ通セサルコトアリ此場合ニ付キ民法ハ特ニ規定ヲ設ケ當事者カ全ク損益分配ノ割合ヲ定メサリシトキハ其割合ハ組合員ノ出資ノ價格ニ應シテ定ムルモノトナシ利益又ハ損失ニ付テノミ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其割合ハ利益及ヒ損失ニ共通ナルモノト推定セリ(六七)蓋シ組合ノ基礎ハ出資ニ在リ出資ハ組合ニ利益ヲ及ホス最モ主ナル原因ナルヲ以テ其額ニ依リテ利益ノ分配額ヲ定ムルハ當然ト云フヘク又出資ノ多小ニ依リ其組合ニ關シ責任ヲ負フ覺悟ニ大小アルヘキモ當然ナルヘク從テ損益トモ其分配ノ割合ヲ出資ノ額ニ依テ定ムヘキモノトナシタルハ頗ル其當ヲ得タリト云フヘシ而シテ利益又ハ損失ニ付テノミ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ大ナル利益ヲ受クル者ハ大ナル責任ヲ負ヒ大ナル責任ヲ負フ者大ナル利益ヲ受クヘキハ條理ノ然ラシムル所ナルヲ以テ其一方ノ分配ニ付キ割合ヲ定メタルトキハ他ノ一方ニ付テモ此割合ニ依ルノ意思ナリト推定スル所以ナリ然レトモ此場合ハ單ニ推定ニ止マルヲ以テ反證ヲ舉ケテ之ヲ爭フコトヲ得ルハ勿論ナリ

契約各論 組合 組合契約ノ效力 組合内部ノ關係

右ハ單ニ分配ノ割合ニ付テ述ヘタルモノニシテ各組合員ハ多少ニ拘ハラズ分配ヲ受クルコトヲ前提トナシタリト雖モ之ニ反シ組合員ノ一人又ハ數人ノミカ利益ノ全部ヲ受ケ若クハ全ク受ケス或ハ一人又ハ數人ノミカ損失ノ全部ヲ負擔シ若クハ全ク負擔セストノ契約ヲ爲シタルトキハ此契約ハ有效ナルモノトス何トナレハ組合契約ノ定義ノ章ニ於テ説明シタルカ如ク各組合員カ出資ヲ爲スコトハ組合ノ要件ナリト雖モ損益ノ分配ハ組合契約ノ要件ニアラサルハ勿論之ニ關スル規定ハ單ニ補充的ノ規定ニシテ公益ニ關スル命令規定ニアラサレハナリ

第五款 組合財産ノ分割並ニ持分ノ處分

組合財産ハ總組合員ノ共有ニ屬スルコト既ニ述ヘタルカ如ク共有者ハ何時ニテモ共有物ノ分割ヲ求ムルコトヲ得ヘク又其持分ヲ自由ニ處分スルヲ得ルコト共有ノ原則タリ然レトモ組合財産ハ組合員カ共同事業ヲ營ムカ爲メ組合契約ニ因リ出資セルモノヲ基トシ共同事業ノ資本タルヲ以テ何時ニテモ其分割ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノトセハ組合ノ事業ハ營ムコトヲ得ス從テ組合契約ヲ組合員一人ノ意思ヲ以テ解除スルコトヲ得ルト同一ノ結果ニ至ルヘキカ故ニ民法第六百

組合財産ノ分割並ニ持分ノ處分

組合外部ノ關係

七十六條第二項ハ組合員ハ清算前ニ組合財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得サルモノトセリ又持分ノ處分ニ至リテモ之ヲ各組合員ノ自由ニ爲スコトヲ得ルモノトセハ組合ノ存續ハ得テ望ムヘカラサルヲ以テ持分ノ處分ハ其當事者間ニ於テハ有效ナリト雖モ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトセリ(第六七六第一項)

第二節 組合外部ノ關係

組合ノ第三者ニ對スル關係ハ之ヲ組合ノ債權者ニ對スル關係ト組合ノ債務者ニ對スル關係トニ分チテ説明スヘシ

第一 組合ノ債權者ニ對スル關係

組合カ組合事業ニ屬スル取引ニ付キ第三者ニ對シ債務ヲ負ヒタル場合ニ於テハ組合ハ法人ニアラサルヲ以テ其債務ハ即チ組合員ノ債務タラサルヘカラス而シテ各組合員カ其債務ヲ負擔スヘキ割合ハ損失分擔ノ割合ニ依ルヘキモノトス即チ當事者カ損失分擔ノ割合ヲ定メタルトキハ之ニ依リ利益分配ノ割合ノミヲ定メタルトキハ其利益分配ノ割合ニ依リ若シ損益共ニ分配ノ割合ヲ定

契約各論

組合 組合契約ノ效力 組合外部ノ關係

メサルトキハ出資ノ價格ニ應シテ分擔スヘキモノナリ何トナレハ債務ハ組合ノ損失トシテ計算スヘキモノナレハナリ然レトモ組合ノ債權者カ其債權發生ノ當時各組合員ノ損失分擔ノ割合及ヒ出資額ヲ知ラサルコトアルヘシ此場合ニ於テハ多數當事者ノ債務ナルヲ以テ民法第四百二十七條ノ原則ニ從ヒ債權者ハ各債務者カ平等ノ割合ヲ以テ義務ヲ負フモノト豫想スルヲ正當トナスカ故ニ其債權者ハ各組合員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得ルモノトス(民法五六七)但此規定ハ債權者ヲ保護スル主旨ニ出テタルモノナルヲ以テ債權者カ債權發生ノ後組合員ノ損失分擔ノ割合ヲ知リタルトキハ此割合ニ依リ各組合員ニ對シ其權利ヲ行フコトヲ得ルハ勿論ナリ

斯ノ如ク組合ノ債務ハ各組合員カ一定ノ割合ニ依リ各自別々ニ分擔スルモノニシテ連帶ニアラサルヲ以テ商取引ニ因リ生シタル債務ハ別ニ商法ノ規定ニ從フ各組合員ノ財産ノ狀況ハ組合ノ債權者ニ重大ナル利害關係ヲ有スヘシ是故ニ組合員ハ第三者ニ對シテモ妄リニ其組合財産ニ關スル持分ヲ處分スルコトヲ得サルモノトナシ民法第六百七十六條第一項ニ組合員カ組合財産ニ付キ

其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニモ對抗スルコトヲ得サルモノトナシ以テ第三者ヲ保護セリ

第二 組合ノ債務者ニ對スル關係

組合ハ法人ニアラサルヲ以テ組合ノ債權者ニ對シ組合カ債務者ト爲ル能ハサルト同シク組合ノ債務者ニ對シテモ亦組合カ債權者タルコト能ハスシテ其債權者タルモノハ組合員ナルコト言フ竣タス而シテ各組合員カ有スル權利ノ持分ハ利益ノ分配額ニ依ルヘキコト亦勿論ナリ然レトモ此等債權ノ行使ハ即チ組合ノ業務執行ノ一部ナルヲ以テ必スシモ各組合員カ各別若クハ共同シテ其權利ヲ行フヲ要セス組合ノ業務トシテ業務執行者カ之ヲ行フコトヲ得ヘキノミナラス其債權ハ組合ノ財産ニシテ各組合員カ清算前ニ分割ヲ求ムルコトヲ得サルモノナルヲ以テ組合ノ債權者ニ對スル場合ノ如ク第三者保護ノ必要ノ爲メニモ組合ノ債權行使ニ關スル組合員ノ第三者ニ對スル關係ヲ多ク規定スルノ要ナシ從テ之ニ關スル民法ノ規定ハ唯第六百七十七條ノ一條アルノミ本條ニ依レハ組合ノ債務者ハ其債務ト組合員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ

得ス蓋シ理論上ヨリスレハ組合債務者カ組合ニ對シテ負フ債務ハ即チ各組合員ノ債權ニシテ各組合員ニ對シ一定ノ割合ニ於テ負フモノナリ故ニ其債務者カ組合員ノ一人ニ對シ組合ト關係ナキ債權ヲ有スルトキハ此債權ト其組合員ニ對シ負フ債務ノ部分トハ之ヲ相殺スルコトヲ得ルモノト云ハサルヘカラス然レトモ若シ斯ノ如クスルトキハ其組合員ハ組合財産中自己持分ノ一部ヲ純然タル自己ノ目的ノ爲メニ費消スルコト、ナリ即チ組合財産ノ一部ヲ分割シテ處分スルト同一ノ結果トナルヲ以テ之ヲ禁シタルモノナリ

組合契約ノ終了

第三章 組合契約ノ終了

組合契約ノ終了ハ一部ノ組合員ニ對シテノミ終了スル場合ト總組合員ニ對シテ終了スル場合トノ二種アリ前者ハ之ヲ組合員ノ脱退ト云ヒ脱退セル組合員ニ對シテノミ組合契約カ終了スルモノニシテ他ノ組合員ヨリ成ル組合ハ依然トシテ存續ス之ニ反シ後者ハ之ヲ組合ノ解散ト云ヒ組合契約全部終了シ組合ハ全然消滅ニ歸スルモノナリ

組合員ノ脱退

第一節 組合員ノ脱退

脱退ノ原因

第一款 脱退ノ原因

組合契約ニ於テ豫メ定ムル所ニ從ヒ若クハ總組合員ノ合意ニ因リ一部ノ組合員ト他ノ組合員トノ間ニ於テ組合契約ノ解除ヲ爲シ以テ一部ノ組合員カ組合ヨリ脱退スルコトヲ得ルハ契約總則ノ規定ニ依リ當然ノコトニシテ別ニ説明スルヲ要セス民法カ特ニ脱退ノ原因トシテ規定スルハ組合契約若クハ總組合員ノ合意ニ依ルニアラスシテ一部ノ組合員カ脱退スル場合ニ關ス茲ニ説明スル所モ亦右ノ場合ニ關スルモノト知ルヘシ
組合員脱退ノ原因ハ脱退スル組合員ノ任意ニ存スルモノト任意ニアラサル場合トアリ

第一 任意ノ場合

- 一 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキ
 - 二 組合契約ヲ以テ或組合員ノ終身間組合ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキ
 - 三 已ムコトヲ得サル事由アルトキ
- 組合ハ素ト人ノ行爲ヲ拘束スルモノナルヲ以テ永久ニ其效力ヲ認メ組合員ヲ

契約各論

組合 組合契約ノ終了 組合員ノ脱退

シテ其束縛ヲ受ケシムルハ公益上策ノ得タルモノニアラス是ニ於テ法律ハ組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサリシトキハ各組合員ハ任意ニ脱退スルコトヲ得ルモノトス又縦令組合ノ存續期間ヲ定メタルトキト雖モ其期間カ或組合員ノ終身間ナル場合ハ其存續期間ハ不確定ニシテ且甚タ長期ニ亘ルヘキモノニシテ殆ト無期限ノ場合ト同様ナルニ依リ此場合モ亦前ト同シク各組合員ハ任意ニ脱退スルコトヲ得ルモノトス既ニ任意ノ脱退ヲ許ス以上ハ其脱退ノ時期モ亦脱退者ノ任意ナルヘキ理ナリト雖モ此脱退ヲ認メタル理由ハ主トシテ脱退者ノ利益ニ在ルヲ以テ同時ニ又他ノ組合員ノ利益ヲモ保護シテ其權衡ヲ得セシメサルヘカラス是故ニ法律ハ特ニ規定シテ脱退ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ノ外組合ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得サラシム(民法六七)以上ハ組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ定メサルカ若クハ之ヲ定メサルト同視スヘキ場合ニ關シ組合契約ニ於テ普通ノ期間ヲ定メタル場合ニ在リテハ其契約ノ當事者タル各組合員ハ其契約ニ拘束セラレ妄リニ脱退スルコトヲ得サルハ勿論ナリ然レトモ此場合ニ於テモ或組合ト他ノ組合員トノ間

第二 不任意ノ場合

- 一 死亡
 - 二 破産
 - 三 禁治産
 - 四 除名
- 組合ハ元來組合員相互ノ間ニ於ケル人物及ヒ財産上ノ信用ニ基キ成立スルモノナルヲ以テ死亡ニ因リテ其人カ亡クナリ破産ニ因リテ其財産ヲ失ヒ若クハ禁治産ノ爲メニ無能力トナリ死亡ト類似ノ状態ニ陥リタル場合ノ如キ何レモ組合成立ノ要素ヲ失ヒタルモノト云フヘク其組合員ニ代テ相續人破産管財人又ハ後見人カ當然組合員タル權利ヲ行フヘカラサルハ勿論ニシテ其組合員ト他ノ組合員トノ間ニ於ケル組合契約ハ之カ爲メニ消滅ニ歸スヘキモノナリ是

レ即チ此等ノ事由ヲ以テ脱退ノ原因トシタル所以ナリ純粹ナル理論ヨリ言ヘ
ハ此等ノ場合ニ於テハ單ニ或組合員ノ脱退ノミナラス組合契約ハ全部終了ス
ルモノトナシ組合ハ解散スヘキモノトナスヘキモノ、如ク又現ニ斯ノ如ク爲
シタル立法例ナキニアラスト雖モ斯ノ如キハ理論ニ偏シ却テ實際ニ不便ナル
ヘキニ依リ我民法ハ之ヲ以テ單ニ組合員脱退ノ原因トナシ組合ハ依然他ノ組
合員間ニ存續スヘキモノトナシタリ加之此等ノ場合ニ於テ組合員カ脱退スル
ハ組合契約ニ特約ナキ場合ニ限り若シ豫メ組合契約ニ於テ此等ノ場合ニ相續
人カ死亡セル組合員ノ權利義務ヲ承繼シ又ハ後見人カ禁治産者ノ權利義務ヲ
代テ行フヘキコト等ヲ定メタルトキハ其契約ハ有效ニシテ組合員ハ之カ爲メ
ニ脱退スルモノニアラス

組合ハ組合契約ノ效力トシテ存立スルモノナルヲ以テ或組合員ニ對シ殊ニ正
當ナル事由アリテ組合關係ヲ繼續スル能ハサルトキハ其組合員ニ對シ他ノ組
合員ヨリ契約ヲ解除スルコトヲ得サルヘカラス此場合ニ於テモ純理ヨリスレ
ハ契約ハ全部解除サレ組合ハ解散スヘキモノナリト雖モ是レ頗ル實際ニ不便

ナルニ依リ特ニ其組合員ニ對シテノミ契約ヲ解除シ他ノ組合員間ニ在リテハ
依然組合ヲ存續セシム之ヲ組合員ノ除名ト云ヒ脱退原因ノ一タリ然レトモ組
合員ノ除名ハ其人ノ財産及ヒ名譽ニモ至大ノ影響ヲ及ホスコトアルヲ以テ除
名セントスルトキハ二箇ノ條件ヲ具ヘサルヘカラス其一ハ除名スヘキ正當ノ
事由アルヲ要ス契約總則ノ規定ニ依レハ契約ノ解除ハ契約又ハ法律ノ特別規
定ニ依ル場合ノ外ハ義務者カ其義務ヲ履行セサルカ若クハ其履行ノ全部又ハ
一部カ義務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ不能トナリタル場合ナラサルヘカラ
ス或組合員ニ付キ斯ノ如キ事由アルトキハ除名スヘキ正當ノ事由アリト云フ
ヲ得ルハ勿論尙ホ此以外ニ於テモ縱令其組合員ノ責ニ歸スヘキモノニアラス
トスルモ到底其組合員ト事業ヲ共ニスルコトヲ得サラシムル如キ事由ハ皆除
名スヘキ正當ノ事由タルモノトス條件ノ其二ハ他ノ組合員ノ悉ク一致スルコ
ト是ナリ蓋シ組合員ノ除名ハ其者ニ對シテハ契約ノ解除ト爲ルト同時ニ他ノ
組合員間ニ在リテハ契約ノ一部變更ト爲ルヲ以テ他ノ組合員全體ノ一致ヲ要
スルコト當然ナリ

右ノ如ク二箇ノ條件ヲ具備スルトキハ組合員ヲ除名スルコトヲ得ヘク除名セラル、組合員ノ數ハ必スシモ一人タルヲ要セス數人ニテモ除名スルコトヲ得ルハ言フ俟タス而シテ其餘名ハ右ノ條件ヲ具ヘテ他ノ組合員カ除名スヘキ意思表示ヲ爲シタルトキニ於テ其效力ヲ生ス然レトモ除名セラレタル組合員ニ對シテハ其者ニ其旨ヲ通知シタル後ニアラサレハ之ヲ對抗スルコトヲ得サルモノトス然ラスンハ其組合員ハ何事モ知ラサルニ既ニ組合員タル資格ヲ失フコト、ナリ意外ノ損失ヲ被ルコトアルヘク又其者ヲ尙ホ組合員ナリト信シテ其者ト取引ヲ爲シタル第三者モ亦同シク意外ノ損失ヲ招クコトアルヘケレハナリ

第二款 脱退ノ效力

脱退ノ效力ハ脱退セル組合員カ組合員タル資格ヲ失フニ在リ即チ其組合員ノ爲メニハ脱退ノ時ニ於テ組合契約カ終了セルモノナルヲ以テ組合ノ清算ヲ爲シ損益分配ノ割合ニ應シテ利益アルトキハ其分配ヲ受ケ損失アルトキハ之ヲ負擔セサルヘカラス然レトモ組合員ノ脱退アル毎ニ其清算ヲ爲スヘキモノトスルトキ

脱退ノ效力

ハ事實上組合ハ解散セルト同様ノ結果ヲ受ケ法律カ成ルヘク組合ノ解散ヲ避ケテ或組合員ノミノ脱退ニ止メントシタル目的ヲ達スル能ハサルカ故ニ法律ハ特ニ規定ヲ設ケ脱退ノ場合ニ於ケル脱退員ト他ノ組合員トノ間ノ計算ハ脱退ノ當時ニ於ケル組合財産ノ狀況ニ從ヒ單ニ帳簿上ノ計算ヲ爲シ脱退員ニ返還スヘキモノハ其出資ノ種類如何ヲ問ハス金錢ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得セシム又脱退ノ當時ニ於テ未タ結了セサル事項ニ付テハ其事項丈ケ計算ヲ延シ其結了スルヲ俟テ後ニ計算スルコトヲ得セシム(民法六八)

第二節 組合ノ解散

第一款 解散ノ原因

組合ノ解散トハ組合契約全部ノ終了ヲ謂フ故ニ其原因ハ組合契約ヲ以テ定メタル存續期間ノ満了、解除條件ノ成就、組合員全體ノ一致等種々アリト雖モ此等ハ契約ノ性質上當然ノ事ニシテ言フ俟タス茲ニ民法ニ解散ノ原因トシテ規定スル所ハ特ニ規定ヲ要スル事由ニ限ルモノトス而シテ此種ノ原因ニ二種アリ一ハ其原因生スルトキハ組合ハ當然解散スルモノニシテ一ハ組合員ニ解散ノ請求權ヲ生

組合ノ解散ノ原因

契約各論

組合 組合契約ノ終了 組合ノ解散

スルニ止マルモノナリ
第一 目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

此場合ハ第一種ノ解散原因ニシテ組合ハ或事業ヲ營ムコトヲ以テ目的トスルモノナルカ故ニ其事業カ成功シタルトキハ既ニ其目的ヲ達シ最早存續ノ必要ナキモノナリ又其目的タル事業ノ成功カ事實上又ハ法律上不能トナリタルトキモ同シク其存續ノ必要ナキモノナリ從テ此等ノ場合ニ於テハ組合契約ヲ以テ定メタル存續期間カ未タ滿了セサルトキト雖モ組合ハ之ニ因テ當然解散スルモノトナスハ至當ノ事ト云フヘシ
第二 已ムコトヲ得サル事由アルトキ

此場合ハ第二種ノ解散原因ニシテ組合員ニ解散請求ノ權利ヲ生シ請求ヲ俟テ始メテ解散スルモノナリ我民法ニ於テハ組合員ニ任意脱退スルコトヲ許シタルヲ以テ解散ヲ請求スルノ必要ハ大ナラサルヘシ然レトモ組合員中義務ヲ履行セサルモノ多ク却テ正當ニ義務ヲ履行セルモノヲ除名セントシテ陰謀ヲ企ツル場合ノ如キ或ハ組合ノ帳簿甚タ不整理ニシテ到底清算ヲ爲スニアラサレ

第二款 解散ノ効力

ハ財産狀況ノ真相ヲ明カニシ難キ場合ノ如キ解散スルノ已ムヲ得サル事由ナキニアラサルヲ以テ尙ホ此權ヲ認メタルナリ斯ノ如ク茲ニ已ムヲ得サル事由ト云フコトハ解散スルノ已ムヲ得サルモノタルコトヲ要シ單ニ脱退ノミヲ以テモ其目的ヲ達シ得ル場合ハ未タ解散請求ノ原因タルニ足ラサルナリ
組合ノ解散ハ純然タル組合契約終了ノ場合ト又組合契約解除ノ場合トアリ其終了ノ場合ニ於テハ其効力ハ唯將來ニ向テノミ生スルモノナルコト勿論ナリト雖モ解除ノ場合ニ於テハ解除ノ効力ハ組合契約カ最初ヨリ無カリシモノト同一ナラシムルニ在ルヲ以テ其効力ハ既往ニ遡ルノ結果ヲ生ス然レトモ組合ノ如キ組合員間ニ種々複雑ナル關係ヲ生スルモノニシテ解散ノ結果相互ニ原狀ニ復セシメントスルハ殆ト不能ノ事ナルノミナラス強テ之ヲ行ハントセハ却テ不公平ナル結果ヲ生スヘキニ依リ貸貸借、雇傭、委任等ノ場合ニ於ケルト同シク組合契約解除ノ効力ハ唯將來ニ向テノミ生スルモノトセリ(民法六)
組合解散ノ効力トシテ述フヘキ主ナルモノハ清算ナリ清算トハ組合事業ノ殘務

ヲ處理スルヲ謂フ即チ組合ノ債權ハ之ヲ履行セシメ債務ハ之ヲ辨濟シ而シテ殘餘財產ハ之ヲ組合員ニ分配スルコト是ナリ然レトモ組合契約ヲ以テ豫メ定ムルカ又ハ總組合員ノ一致ヲ以テスルトキハ必スシモ清算ヲ爲スコトヲ要セス又清算ヲ爲スモ必スシモ法律ノ規定ノ如クスルヲ要スルニアラス法律ハ唯組合契約又ハ總組合員ノ一致ヲ以テ何等ノ特約ヲモ爲サ、ル場合ニ付キ從フヘキ準則ヲ定ムルノミ

清算人

第一項 清算人

清算ハ清算人之ヲ行フ而シテ其清算人ハ組合契約ヲ以テ豫メ定メタル者アルトキハ即チ其者カ清算人トナルヘキモ若シ組合契約ヲ以テ之ヲ定メサルトキハ總組合員カ共同シテ清算人トナリ又ハ總組合員ハ過半数ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得ルモノトス(民法六八五)組合契約ヲ以テスルト否トヲ問ハス組合員ニアラサル者ヲ清算人トナシタルトキハ純粹ナル委任關係ナルヲ以テ其解任辭任共ニ當事者ノ自由ナリト雖モ組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ清算人ヲ選任シタルトキハ組合契約ヲ以テ組合員中ヨリ業務執行者ヲ選任シタル場合ト同シキカ故ニ正當

七六

清算人ノ職務及ヒノ權限

ノ事由アルニアラスンハ辭任スルコトヲ得ヌ又解任セラレ、コトナシ而シテ正當ノ事由ニ因リテ解任スルニモ他ノ組合員ノ一致アルコトヲ要ス(民法六七八)

第二項 清算人ノ職務及ヒ權限

組合ハ法人ニアラス法人ト全ク其性質ヲ異ニスト雖モ清算ノ目的ハ兩者ノ間ニ敢テ異ナル所ナシ是ニ於テ組合清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ法人ノ清算人ニ關スル規定ヲ準用セリ即チ清算人ノ職務ハ

- (一) 現務ノ結了ヲ爲シ
- (二) 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟ヲ爲シ
- (三) 殘餘財産ノ分配ヲ爲ス

コト是ナリ殘餘財産ノ分配ニ付テハ法人ト組合ト其性質ノ異ナルニ從ヒ同シカラサルモノアリ組合ニアリテハ各組合員ノ出資額ニ應シテ之ヲ分割スルモノトス而シテ清算人ノ權限ハ右ノ職務ヲ行フニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スニ在リ訴訟行爲ノ如キモ此權限ノ中ニ屬スルモノナリ

清算人カ二人以上アル場合ニ於テハ業務執行者カ二人以上アル場合ト異ナル所

契約各論

組合 組合契約ノ終了 組合ノ解散

ナキヲ以テ其職務權限ヲ行フニ當リテハ民法第六百七十條ヲ準用シ組合ノ清算ハ清算人ノ過半數ヲ以テ決行スルヲ原則トナシ清算ノ常務ニ限リ各清算人カ之ヲ專行スルコトヲ得ルモノトス然レトモ其結了前ニ他ノ清算人カ異議ヲ述ヘタルトキハ更ニ過半數ニ依リ決行セサルヘカラス而シテ清算ノ常務トハ清算ノ際通常行ハルヘキ事務ヲ謂フ(民法六八六)

第十一編 終身定期金

第一章 終身定期金契約ノ定義

民法第六百八十九條ニ依リ終身定期金契約ノ定義ヲ舉クレハ

終身定期金契約トハ當事者ノ一方カ自己相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期ニ金錢其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生スル契約ナリ

右ノ定義ニ依レハ終身定期金契約ハ左ノ要件ヲ具ヘサルヘカラス

第一 金錢其他ノ物ヲ目的トスルヲ要ス

所謂終身定期金トハ即チ該契約ノ目的タル金錢其他ノ物ヲ云ヒ採テ以テ此契

終身定期金
終身定期金契約ノ定義

約ノ名稱トナシタルナリ而シテ其目的ハ金錢ナルコト最モ普通ナルヲ以テ終身定期金ト稱スト雖モ必スシモ金錢タルコトヲ要件トナスモノニアラス金錢以外ノ物モ亦契約ノ目的トナスコトヲ得然レトモ必ス物タルコトヲ要シ勞力又ハ債權ヲ以テ終身定期金契約ノ目的トナスコトヲ得サルモノトス

第二 當事者ノ一方ハ其目的物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スルヲ要ス

當事者ノ一方即チ終身定期金債務者タルヘキ者ハ相手方即チ終身定期金債權者タルヘキ者ニ對シ契約ノ目的タル金錢其他ノ物ヲ給付スルコトヲ約セサルヘカラス然レトモ其給付ハ必スシモ相手方ニ爲スヘキモノタルヲ要セス第三者ニ給付スヘキコトヲ約スルモ亦當事者ノ自由ナリトス此場合ニ於テハ民法第五百三十七條ニ依リ其給付ヲ受クヘキ第三者ハ定期金債務者ニ對シ其契約ノ利益ヲ享受スル意思ヲ表示シタル時ヨリ定期金債權者ト爲リ直接ニ其給付ヲ請求スル權利ヲ有スルモノトス

第三 目的物ノ給付ハ必ス定期ニ爲スヘキコトヲ要ス

契約各論 終身定期金 終身定期金契約ノ定義

目的物ノ給付ハ毎月、每半年又ハ毎年ト云フカ如ク必ス一定ノ時期ニ爲スヘキコトヲ要ス是レ終身定期金ト云フ名ノ存スル所以ナリ唯其時期ノ定メ方ハ月ヲ以テスルモ年ヲ以テスルモ固ヨリ當事者ノ自由ニ屬スルモノトス

第四 定期金ノ給付ハ當事者ノ一方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ繼續スルヲ要ス

單ニ定期ニ金錢其他ノ物ノ給付ヲ爲スノミノ契約ハ債務辨濟ノ方法トシテモ履行ハル、モノニシテ特ニ規定ヲ設クルノ必要アルコトナシ然レトモ終身定期金契約ナルモノハ多クハ人既ニ老衰ノ境ニ達シ自己ノ勞力ヲ以テ又ハ自ラ自己ノ財産ヲ管理シテ生計ニ資スルコト能ハサルニ至リタル者カ自己ノ餘生ヲ安全ニ送ランカ爲メ締結スルモノニシテ此等ノ場合ニ於テハ定期金給付ノ期間ヲ其人ノ終身間トナスヲ常トス法律カ特ニ終身定期金ナル一節ヲ設ケテ此種ノ契約ヲ規定スルモノ亦實ニ此等ノ必要ニ應セントスルニ在リ故ニ終身定期金契約タルニハ定期金給付ノ存續期間ハ必ス當事者ノ一方又ハ第三者ノ終身間ナルコトヲ要スルモノトス

終身定期金契約ノ效力

以上述フル所ノ定義竝ニ要件ニ依リ終身定期金契約ハ諾成契約ニシテ有償タルコトアリ又無償タルコトアリ從テ雙務タルコト、片務タルコトアルヲ知り得ヘシ而シテ其定義ニ於テ當事者一方カ定期金ノ給付ヲ約スルコトヲ要スル旨ヲ言ヒ相手方カ之ヲ承諾スルヲ要スル旨ヲ言ハサルハ特ニ終身定期金契約ト云ヒ自ラ言フ俟タスシテ明カナルヲ以テナリ決シテ相手方ノ承諾ヲ要セストノ意ニアラサルコト勿論ナリ

第一章 終身定期金契約ノ效力

終身定期金契約ノ效力ハ各當事者ヲシテ契約ノ本旨ニ從ヒ債務ヲ履行セシムルニ在リト雖モ特ニ該契約ノ效力トシテ民法ニ規定スル所ハ該契約ノ效力カ給付ノ爲メニ定メラレタル一定期間ノ半途ニ於テ發生シ又ハ終了シタル場合ニ於ケル定期金ノ計算及ヒ定期金債務者カ其義務ヲ履行セサル場合ニ於ケル定期金債權者ノ救濟方法はナリ

第一節 終身定期金ノ計算

民法第六百九十條ニ依レハ終身定期金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算スヘキモノトス例

終身定期金ノ計算

契約各論 終身定期金 終身定期金契約ノ效力 終身定期金ノ計算

へハ毎年十二月ニ於テ金一千圓宛ヲ給付スヘキ終身定期金契約カ五月一日ニ於テ效力ヲ生シタルトキハ其第一期ノ十二月ニ支拂フヘキ終身定期金ハ一千圓ノ三百六十五分ノ二百四十五ニ相當スル額ナリ之ニ反シ右ノ契約カ翌年四月三十日ニ終了シタルトキハ其終了ノ年ニ於テ支拂フヘキ金額ハ一千圓ノ三百六十五分ノ百二十ニ相當スル額ナリトス蓋シ終身定期金ハ恰モ法定果實ト同シク其支拂ハ一定ノ時ニ於テ爲スト雖モ其額ハ其期日ノ全體ニ亘リテ相當スルモノナルヲ以テ期間ノ半途ニ始リ又ハ終リタルトキハ日割ヲ以テ計算スヘキコト條理ニ適ヒ又當事者ノ意思ニモ適フヘキヲ以テナリ然リト雖モ是レ當事者カ之ニ關シ何等ノ合意ヲモ爲サ、ル場合ニ限ルモノニシテ當事者カ特約ヲ結ヒ或ハ月割ヲ以テ計算スルコト、ナシ若クハ契約ノ效力カ一定期ノ半途ニ始リ又ハ終リタルトキハ全ク此期ノ定期金ヲ支拂ハスト定メ或ハ之ニ反シ其期ニ對シテモ全部ノ定期金ヲ支拂フヘキコトヲ定メタル如キトキハ何レモ其特約ニ依ルヘキコト勿論ナリ

終身定期金債權者ノ救濟方法

第二節 終身定期金債權者ノ救濟方法

終身定期金債務者カ其義務ヲ履行セサル場合ニ於テ債權一般ノ效力ノ外ニ特ニ終身定期金債權者カ有スル救濟方法ハ債務者ノ單純ナル義務不履行ノ場合ト給付義務繼續ノ期間カ繋ル人カ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ死亡セル場合トニ分テ説明スヘシ

第一 單純ナル義務不履行ノ場合

此場合ハ定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ限ルモノニシテ此場合ニ於テ債務者カ其定期金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ債務者ハ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス但既ニ其受取リタル定期金ノ中ヨリ其元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還セサルヘカラス契約總則ノ規定ニ依ルトキハ債務者カ其義務ヲ履行セサルトキハ債權者ヨリ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行セサルトキ始メテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ且債務者ニ對シ特ニ解除ヲ爲スコトノ意思表示ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ終身定期金契約ニ在リテハ債權者ハ斯ノ如キ催告ヲ爲スコトナク又特ニ契約解除ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セス債務

者カ債務ヲ履行セサルトキハ直チニ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ(民法六九)此場合ニ於テハ債權者ハ尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケサルモノトス(民法六九)

右ノ場合ニ於テ債務者ノ元本ノ返還ト債權者ノ定期金ノ中ヨリ元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ノ返還トハ互ニ同時ニ履行スヘキモノニシテ一方ハ相手方カ履行ノ提供ヲ爲ス迄ハ自己ノ履行ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス(民法六)

第二 死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタル場合

此場合ハ債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ定期金給付ノ期間カ繋ル人カ死亡シ以テ契約ノ終了スルニ至リタルモノニシテ其結果若シ其人カ天命ヲ完ウシタルトキハ尙ホ履行セサルヘカラサル債務ヲ免カル、モノナルヲ以テ此點ヨリ云ヘハ債務不履行ト異ル所ナシト雖モ故意ニ其人ヲ死亡セシメタルニアラスシテ其責任單ニ過失ニ止マル如キトキハ必スシモ終身定期金契約上ノ義務ヲ履行セサルモノト云フコトヲ得サル場合アルヘク又縦令義務不履行ト云フコトヲ得ル場合ニ在リテモ第六百九十一條ニ規定スル第一ノ救濟方法ハ債務

者カ元本ヲ受取りタル場合ニ限ルヲ以テ元本ヲ受取ラサル場合ニハ債權者ハ第一ノ方法ニ出ツルコト能ハス更ニ又債務者カ元本ヲ受取りタル場合ニ付テ見ルモ定期金ノ給付其他ノ義務ヲ直接ニ履行セサル場合ト異ナリ一種ノ強制履行ヲ容ル、ノ餘地アリ此等ノ理由ヲ以テ民法ハ此場合ニ於テ債權者ニ第二ノ救濟方法ヲ與ヘ債權者又ハ其相續人カ請求スルトキハ裁判所ハ相當ノ期間尙債權ノ存續スルコトヲ宣告スルコトヲ得セシム即チ斯ノ如クシテ債權者又ハ其相續人ハ其期間尙死亡セル人カ生存セルト同様ニ契約上ノ權利ヲ行ヒ定期金ノ給付等ヲ受クルコトヲ得ルナリ然レトモ此場合ニ於テ債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケ且義務ノ不履行アルトキハ第二ノ救濟方法ニ依ラスシテ第六百九十一條ノ規定ニ依リ第一ノ救濟方法ヲ行フコトヲ妨ケサルモノトス(民法六)終身定期金契約ニ關スル規定ハ遺贈ヲ以テ終身定期金ヲ設定セル場合ニ準用セラル、モノトス蓋シ遺贈ト契約トハ頗ル其性質ヲ異ニスト雖モ終身定期金ノ遺贈ハ其實質ニ於テ終身定期金契約ト同シケレハナリ

第十三編 和解

第二章 和解ノ定義

民法第六百九十五條ニ依リ和解ノ定義ヲ擧クレハ

和解トハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル争ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生スル契約ナリ

右ノ定義ニ依レハ和解ハ左ノ要件ヲ具ヘサルヘカラス

第一 當事者雙方ノ間ニ争ノ存在スルコトヲ要ス

和解ハ當事者間ニ存在スル争ヲ止ムルヲ以テ目的トナスモノナルカ故ニ當事者ノ間ニ争ノ存在スルコトヲ要ス而シテ其争ハ現ニ存在セサルヘカラス縱令將來必ス起ルコトアルヘキモノナルモ未タ起ラサル争ニ付キ和解ヲ爲ス能ハサルナリ且其争ハ必ス權利義務ニ關スル争ナルヲ要シ單純ナル德義上ノ争ハ和解ノ目的タルヲ得サルヤ勿論ナリ苟モ權利義務ニ關スル争ニシテ其争カ現ニ存在スル以上ハ既ニ裁判所ニ訴ヘテ訴訟ト爲レルト否トハ問フ所ニアラサルナリ

第二 當事者雙方其争ヲ止ムルコトヲ約スルヲ要ス

和解ハ争ヲ止ムルヲ以テ目的トスルモノナルヲ以テ當事者雙方争ヲ止ムルコトヲ約束セサルヘカラサルヤ言フ俟タス然レトモ必スシモ其争ノ全部ヲ止ムルコトヲ必要トセス其争ノ一部ヲ止ムルモ亦其一部ニ對スル和解タルコトヲ得ヘシ又必スシモ絶對的ニ争ヲ止ムルコトヲ要セス一時其争ヲ中止スルモ亦和解タルヲ得ルコトアルヘシ何トナレハ現ニ存在スル争ヲ一時中止スルモ亦争ヲ止メタリト云フコトヲ得レハナリ

第三 當事者カ互ニ讓歩スルコトヲ要ス

和解ニ於テハ當事者カ單ニ其間ニ存スル争ヲ止ムルコトヲ約スルノミナラス之ヲ止ムルニ付テハ必ス雙方互ニ其主張ニ付キ讓歩セサルヘカラス例ヘハ甲カ乙ニ對シ金一千圓ノ債權ヲ主張シ乙ハ全然之ヲ否認スル場合ニ於テ甲ハ其主張スル金額中ヨリ五百圓ヲ拋棄シテ残り五百圓ノミヲ受取ルコトヲ承諾シ乙亦其主張ヲ扞ケテ五百圓丈ケハ支拂フコトヲ承諾シ以テ其争ヲ止ムルカ如シ之ニ反シ甲ハ一步モ讓ルコトナクシテ乙カ甲ノ主張全部ヲ認諾シ又ハ乙ハ一步モ讓ラスシテ甲カ主張ノ全部ヲ拋棄セル場合ノ如キハ互ニ讓歩セルニア

ラサルヲ以テ和解ニアラサルナリ
以上定義並ニ要件ニ付キ述フル所ニ依リ和解ノ性質ハ諾成契約ニシテ有償且雙務契約ナルコトヲ知ルヘシ

和解ノ效力

第一章 和解ノ效力

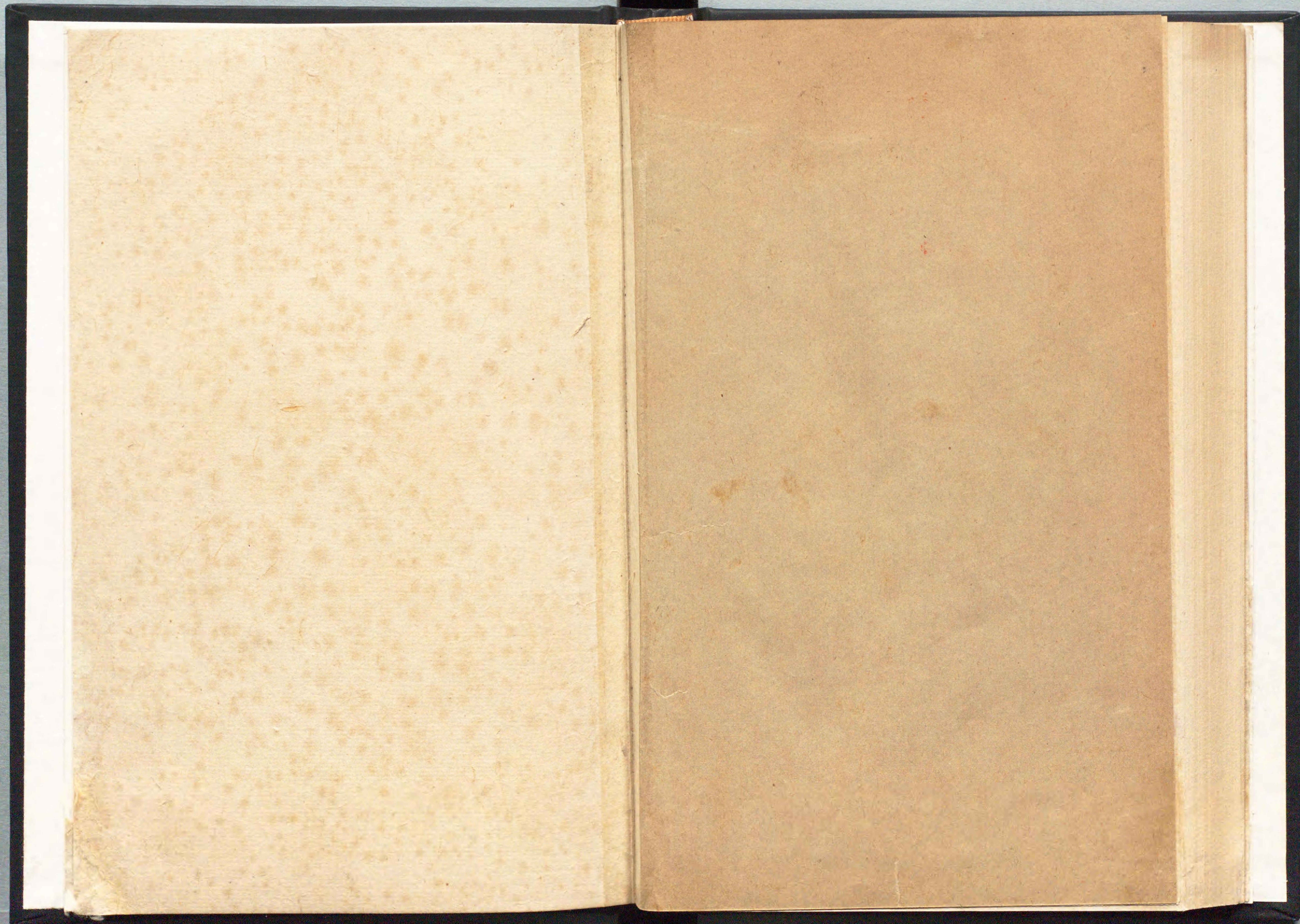
和解ノ效力ニ關シ特ニ説明ヲ要スルハ和解ニ依リ當事者カ互ニ讓歩シテ定メタル法律關係ハ實際ノ關係斯ノ如クナルヘシト云フ認定ニ付キ合意シタルモノニシテ即チ認定的ノモノナルヤ若クハ實際ノ關係如何ヲ問ハス新ニ斯ノ如キ關係トナス即チ付與的ノモノナルヤノ點ニ在リ若シ純然タル認定的ノモノナリトセハ他日之ニ異ナリタル確證出テタルトキハ其和解ハ無効トナラサルヘカラス之ニ反シ和解ヲ以テ純然タル付與的ノモノトナストキハ其爭カ當事者ノ自由ニ變更スルコトヲ得サル法律關係ニ關スルトキハ和解ヲ爲スコトヲ得スト云ハサルヘカラス例ヘハ家督相續權ニ付テノ爭ノ如シ家督相續ノ順位ハ當事者カ自由ニ變更スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ和解カ純然タル付與的ノモノナラハ此種ノ爭ニ付キ和解ヲ爲スハ當事者カ任意ニ家督相續ノ順位ヲ定ムルコトヲ目的ト

ナスコト、ナルカ故ニ不能ノ事ニ屬シ從テ和解ハ無効ト云ハサルヘカラス斯ノ如ク和解ノ效力カ認定的ナルヤ付與的ナルヤニ付テハ學者間ニ大ニ議論アリト雖モ我民法ニ於テハ此效力ヲ何レトモ限定セスシテ當事者カ讓歩ニ付キ爲シタル意思ニ依テ定ムルコト、ナシ若シ當事者カ認定的ノ合意ヲ爲シ和解ニ依リ一方カ爭ノ目的タル權利ヲ有スルモノト認メ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メタル場合ニ於テモ其者カ從來此權利ヲ有セサリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テタルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタルモノトナシ其和解ハ依然トシテ有效ナルモノトナセリ(民法六九六)即チ當事者ハ認定的ノ合意ヲ爲スモ之ト異ナル確證出テタル場合ニハ法律ノ規定ニ依リ其和解ニ付與的ノ效力ヲ付スルモノナリ當事者カ最初ヨリ付與的ノ合意ヲ爲シタルトキハ法律ノ規定ヲ俟タスシテ斯ノ如クナルヤ言フ俟タス然レトモ事實ト異ナリタル關係ヲ定ムル和解カ有效ナルハ和解ニ依リ新ナル關係ヲ作ルニ在ルヲ以テ當事者カ自由ニ變更スルコトヲ得サル爭ニ付キ爲シタル斯ノ如キ和解ハ無効ナリト云ハサルヘカラス唯和解ニ關スル當事者ノ合意カ認定的ナルノ場合ハ縱令任意ニ

W324.5
I-97
1(104)

變更スルコトヲ得サル法律關係ニ屬スルモ之ニ異ナル確證ノ出テサル限りハ其
和解ハ有效ナリ何トナレハ當事者ハ事實上ノ關係ヲ變更セントスルニアラスシ
テ事實上ノ關係斯ノ如クナルヘシト認定セルニ過キス而シテ此認定カ事實ト異
ナルヤ否ヤハ反對ノ確證出ツルマテハ不明ナリ從テ其和解ヲ無効ナラシムル理
由存セサレハナリ

契約各論(完結)





最高裁判所図書館



000126272

